

令和 8 年度 地理歴史科 シラバス

科目	特説歴史	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	2 学年
使用教科書	「高等学校 歴史総合」(第一学習社)				
補助教材等	「現代の歴史総合」準拠ノート (第一学習社)、新詳「歴史総合」(浜島書店)				

### 1 学習の到達目標

<p>歴史資料による見方、考え方を働かせ、言語活動を通して、世界史、日本史を的確に理解し効果的に表現するし質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <p>(1) これからの生活に必要な歴史の知識や技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】</p> <p>(2) 歴史資料を考察し、論理的に考える力やその時代背景を豊かに想像したりする力を伸ばし、言葉や表現で伝え合う力を高め、歴史事実やそれに対する自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】</p> <p>(3) 歴史がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって社会現象に向き合い、これからの社会の担い手としての自覚をもち、歴史を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。</p> <p>【学びに向かう態度・人間性等】</p>
--

### 2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○社会生活を円滑に営む上で生きる力の基となる歴史的思考の力を身に付けるための大切な授業です。学習活動それぞれのねらい・目的を意識しながら、授業へ取り組んでください。</p> <p>○人名や知識は教科書に出てくる範囲でいいので、授業前後に調べておく。</p> <p>○授業では歴史の事実から、その後の変化や現代までのつながりを意識する。</p> <p>○自分が理解したことや、考えたことを伝える努力をし、思考力を鍛え、表現力を磨くこと。</p>
--

### 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と日本の関係を広い視野で捉え、現代的な近現代の歴史の理解を深めるとともに、資料から歴史に関する情報を適切に理解している。	近現代の歴史の変化に関わる事象について、グローバル化などの歴史の変化と日本や日本周辺の地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。 複数の資料の関係性に着目し、資料を読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、議論ができる。	近現代の歴史の変化に関わる事象について、国家及び社会で起こりえることについて、広い視野に立って課題を主体的に理解、解決しようとしている。
主な評価方法	定期テスト 単元ごと的小テスト	定期テスト (記述, 論述問題) 単元ごと的小テスト 提出課題	授業での討論や発表 レポートの作成 提出課題

#### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	第一次世界大戦と大衆社会	教科書 準拠ノート 資料集	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第一次世界大戦の展開, 日本やアジアの経済成長, ソヴィエト連邦の成立とアメリカ合衆国の台頭, ナショナルリズムの動向と国際連盟の成立などを基に, 総力戦と第一次世界大戦後の国際協調体制を理解する。</li> <li>・諸資料を活用し, 課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容や繋がりについて理解している(a)</li> <li>・グラフ、資料を踏まえて、内容や変化、社会への影響、今日まで繋がりを捉え、要点を把握している(b)</li> <li>・資料の内容や要点を表現したり、発表したりすることができる(c)</li> </ul>
5 6	経済危機と第二次世界大戦	教科書 準拠ノート 資料集	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界恐慌, ファシズムの伸張, 日本の対外政策、第二次世界大戦の展開などを基に, 国際協調体制の動揺を理解する。</li> <li>・諸資料を活用し, 課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容や繋がりについて理解している(a)</li> <li>・グラフ、資料を踏まえて、内容や変化、社会への影響、今日まで繋がりを捉え、要点を把握している(b)</li> <li>・資料の内容や要点を表現したり、発表したりすることができる(c)</li> </ul>
7 8 9	第二次世界大戦の戦後処理	教科書 準拠ノート 資料集	16	<ul style="list-style-type: none"> <li>・国際連合と国際経済体制, 冷戦の始まりとアジア諸国の動向, 戦後改革と日本国憲法の制定, 平和条約と日本の独立の回復などを基に, 第二次世界大戦後の国際秩序と日本の国際社会への復帰を理解する。</li> <li>・諸資料を活用し, 課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容や繋がりについて理解している(a)</li> <li>・グラフ、資料を踏まえて、内容や変化、社会への影響、今日まで繋がりを捉え、要点を把握している(b)</li> <li>・資料の内容や要点を表現したり、発表したりすることができる(c)</li> </ul>
10 11	冷戦と脱植民地化・第三世界の台頭	教科書 準拠ノート 資料集	14	<ul style="list-style-type: none"> <li>・脱植民地化とアジア・アフリカ諸国, 冷戦下の地域紛争, 先進国の政治の動向, 軍備拡張や核兵器の管理などを基に, 国際政治の変容を理解する。</li> <li>・諸資料を活用し, 課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容や繋がりについて理解している(a)</li> <li>・グラフ、資料を踏まえて、内容や変化、社会への影響、今日まで繋がりを捉え、要点を把握している(b)</li> <li>・資料の内容や要点を表現したり、発表したりすることができる(c)</li> </ul>
12 1 2	国際秩序の変容と21世紀の世界	教科書 準拠ノート 資料集	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・石油危機, アジアの諸地域の経済発展, 市場開放と経済の自由化, 冷戦の終結, 民主化の進展, 地域統合の拡大と変容, 地域紛争の拡散などを基に国際政治の変容と課題を理解する。</li> <li>・諸資料を活用し, 課題を追究したり解決したりする活動に主体的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・教科書の内容や繋がりについて理解している(a)</li> <li>・グラフ、資料を踏まえて、内容や変化、社会への影響、今日まで繋がりを捉え、要点を把握している(b)</li> <li>・資料の内容や要点を表現したり、発表したりすることができる(c)</li> </ul>

令和 8 年度 英語科 シラバス

科目	探求英語 I	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	2 年
使用教科書	英語総合問題集 エリクサー (啓隆社)				
補助教材等					

1 学習の到達目標

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「意味のまとまり」をつかみ、大まかな内容を把握する。</li> <li>・正確に英文を読む力をつける。</li> </ul>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<ul style="list-style-type: none"> <li>○意味のかたまりを意識して読む。単語は推測して、内容把握に重点をおく。</li> <li>○英文の構造を考える。(文型を意識する)</li> <li>○辞書は、なるべく使わず、上記の推測する力を身につける。</li> </ul>
---

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・英文解釈の基本的な知識を身につけているかどうか。	・指示された話題について、自分なりの意見を英語で表現できるかどうか。 ・問題について正しい答えを導けるか。	・難解な問題に対し、粘り強く考えようとする態度を示せるかどうか。 ・授業中の課題や提出物に対し、真剣に取り組んでいるか。
主な評価方法	・定期考査(中間・期末) ・提出課題	・定期考査(中間・期末) ・提出課題	・授業態度(参考) ・提出課題

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	教材	教材	時間	学習内容	評価基準
4 5 6	1	エリクサー (啓隆社)	17	時制	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する
	2			完了形	
	3			助動詞	
	4			受動態	
	5			不定詞	

7 8 9	(5)	エリクサー (啓隆社)	18	不定詞	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する
	6			不定詞	
	7			動名詞	
	8			分詞	
	9			分詞	
10 11 12	10	エリクサー (啓隆社)		関係詞	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する
	11			関係詞	
	12			比較	
	13			比較	
	14			仮定法	
1 2	(14)	エリクサー (啓隆社)	18	仮定法	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する
	15			仮定法	
	(16)			動名詞と分詞	
	(17)			現在分詞過去分詞	
	(18)			まとめ	

令和 8 年度 国語 科 シラバス

科目	論理国語	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	2 学年
使用教科書	論理国語 (数研出版)				
補助教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 論理国語 準拠ワーク (数研出版) ・ プロGRESS現代文総演習標準編 (いっずな書店)</li> <li>・ 現代文単語 (数研出版) ・ 意味から学ぶ頻出漢字 3000 (第一学習社)</li> </ul>				

1 学習の到達目標

言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

- (1) 実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けるようにする。【知識及び技能】
- (2) 論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】
- (3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

○評論文を読むときには、論旨を正確に把握することを意識して読みましょう。

○論旨を早く正確につかむためには、読み慣れることが必要です。自分の興味関心のある分野の文や1年次で扱った題材などで興味関心を持った分野の文などの読書を通して文章に慣れましょう。

○授業の前には単元で扱う題材を読み、分からない語句を調べておきましょう。また、分かりにくい表現や記述をチェックしたうえで授業にのぞんでください。

○まず自分の「読み」をしましょう。その「読み」があってこそ、授業で確認される「読み」との照合が図られ、自分の「読み」の深化につながります。どの語句や記述に着目したのか、構成をどのように捉えたのか、筆者の主張や論旨などをどのように捉えたのか、自分の「読み」を確認する機会が授業です。

○周りの仲間との意見交換や協働学習が自分の見識を広げます。ペア・グループワークの機会を大いに活用しましょう。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	実社会に必要な国語の知識や技能を身に付けて適切に使っている。	論理的、批判的に考える力を伸ばすとともに、創造的に考える力を養い、他者との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉の価値への認識を深めるとともに、自分の考えを相手に伝えるように言葉を通して伝え、積極的に他者や社会と関わろうとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考査</li> <li>・ ワークシート記述内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 定期考査</li> <li>・ ワークシート記述内容</li> <li>・ 発表時の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 漢字、単語小テストの取り組み</li> <li>・ 授業中の行動観察</li> <li>・ ペア、グループワーク時の行動観察</li> <li>・ ふりかえりの記述内容確認、分析</li> </ul>

#### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	「論理の展開を的確に捉え要旨を把握する」	・「弱いつながり」 ・プロGRESS	9	・文章中の「しかし」「つまり」等に着目し筆者の考えを捉える。 ・各段落内容の繋がりを捉え、要旨を把握する。	・言葉には、認識したり説明したりすることを可能にする働きがあることを理解している。(a) ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要旨を把握している。(b)
5	「筆者のものの捉え方を読み取り自分の考えを理由とともに書く」	・「手の変幻」 ・プロGRESS	12	・文章中の「いわば」「～という」「したがって」「もちろん」「しかし」等に着目し論理の展開を捉える。 ・「話題の提示」、「考察」、「主張」の展開を捉え、筆者の「美術作品」の捉え方を理解する。 ・筆者の美術作品の捉え方について自分の立場を明確にしたうえで考えを文章にまとめる。	・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。(a) ・自分の立場や論点を明確にして、自分の考えを支える適切な根拠を示している。(b)
6	「二項対立文を読み自分の考えを説得力のある文にまとめる」	・「胆力について」 ・プロGRESS	12	・「驚く人」と「驚かない人」の対比関係を捉え、論の展開のしかたを把握する。 ・文章内容に関連した具体例を探し、対比を用いて文章にまとめる。	・主張とその反証など情報と情報との関係について理解を深めている。(a) ・自分の考えを説得力のある文にまとめ、言葉を通して積極的に他者に伝えようとしている。(c)
7 8	「小説を読み自分の考えを深める」	・「山月記」 ・プロGRESS	12	・李徴の告白を丹念に追いながら、李徴の心情や内面を捉える。 ・小説を読むことで心が動かされたり、新しい見方や考えが浮かんだりすることを実感する。 ・他者と交流し、自分の読みを相対化させ考えを深める。	・新たな考えの構築に繋がる読書の意義と効用について理解を深めている。(a) ・人間や社会などについて、文章の内容や解釈を多様な読みと結びつけて、新たな観点から自分の考えを深めている。(b)
9	「具体と抽象を捉え筆者の主張を読み取る」	・「『内的成長』社会へ」 ・プロGRESS	12	・具体的記述と抽象化された記述を指示語や接続詞に着目しながら捉える。 ・抽象化された記述の中に筆者の主張が表れていることを読み取る。	・情報を重要度や抽象度によって階層化して整理する方法について理解を深めている。(a) ・文章の種類を踏まえて、内容や構成、論理の展開などを的確に捉え、論点を明確にしなが重要旨を把握している。(b)

10	「抽象的思考を言語化し自分の考えとして書く」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・『『具体』から『抽象』へ」</li> <li>・プロGRESS</li> </ul>	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文中から「抽象的思考」とはどのような思考か、その利点は何かを読み取る。</li> <li>・寓話を読み、抽象化したうえで、現実の場面にどう具体的に活かせるのかを考えて文章にまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。(a)</li> <li>・根拠や論拠の吟味を重ね主張を明確にしている。(b)</li> </ul>
11	「資料との関係を把握し内容や構成を的確に捉える」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「未来世代への責任」</li> <li>・プロGRESS</li> </ul>	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「アダムスミス」、「京都議定書」、「京都議定書の批准をめぐる混乱」を引用した筆者の意図を考察する。</li> <li>・資料が本文の記述内容や構成と的確に結びついているのかを検証する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文や文章の効果的な組立て方や接続の仕方について理解を深めている。(a)</li> <li>・資料との関係を把握し、内容や構成を的確に捉えられている。(b)</li> </ul>
12	「主張を支える根拠を検討し筆者の主張の妥当性を吟味する」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「〈近代〉の入口の出口の間」</li> <li>・プロGRESS</li> </ul>	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「知識の体系性」をキーワードとして論の展開を追い、「十六世紀」と「二十一世紀」の類似点が筆者の主張の根拠となっていることを読み取る。</li> <li>・筆者の主張を支える根拠を検証するとともに、根拠から導かれる主張の妥当性を吟味する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主張とその前提や反証など情報と情報との関係について理解を深めている。(a)</li> <li>・主張を支える根拠や結論を導く論拠を批判的に検討し文章の妥当性を吟味している。b)</li> </ul>
1	「効果的な文章の構成を工夫し自分の主張が的確に伝わる文章を書く」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「科学・技術の歴史の中での社会」</li> <li>・プロGRESS</li> </ul>	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・広義と狭義の「科学」と「技術」の記述を追いながら、「話題提示」「展開」「転換」「結論」の構成を捉える。</li> <li>・資料を読み、自分の考えを「起承転結」の構成で文章に書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・効果的な段落の構造や論の形式など文章の構成や展開の仕方について理解を深めている。(a)</li> <li>・文の構成を吟味し、文章全体の論理の明晰さを確かめ、自分の主張が的確に伝わる文章になるよう工夫している。(b)</li> </ul>
2	「日本語についての考えを深める」	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「日本語は非論理的か」</li> <li>・プロGRESS</li> </ul>	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文における「日本語」の性質を、「非論理的」をキーワードに読み取る。</li> <li>・日本語について述べられた他の論を読み、自分の「日本語」についての考えを書く。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・推論の仕方について理解を深め使うことができている。(a)</li> <li>・関連する文章や資料を基に、書き手の立場を考えながら、内容の解釈を深めている。(b)</li> </ul>

## 令和 8 年度 国語科 シラバス

科 目	古典探究	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	2 学年・文系
使用教科書	高等学校 古典探究（数研出版）				
補助教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典探求 準拠ワーク（数研出版）</li> <li>・ 必携 新明説漢文（尚文出版）・必携 新明説漢文ノート（尚文出版）</li> <li>・ 理解を深める 古文単語 351（尚文出版）</li> <li>・ 改訂版これでわかる明快古典文法（いいずな書店）</li> <li>・ 改訂版これでわかる明快古典文法必修ノート（いいずな書店）</li> <li>・ 四訂版プロGRESS古典総演習標準編（いいずな書店）</li> </ul>				

### 1 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。【知識及び技能】</li> <li>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】</li> <li>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】</li> </ol>
---

### 2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○古文はまず音読をしましょう。音読を通して古文特有の言葉、リズムをつかむことができます。</p> <p>○文章を理解するためには、基本的な古文単語を習得し、解釈に必要な古典文法の知識を確実にすることが重要です。古文単語帳活用等によりひとつずつ確実に重要古文単語を理解し覚えると同時に、教科書や問題集の予習・復習を通して古典文法を身につけていくことが大切です。また、当時の文化・生活習慣等の古典常識も学習していきましょう。</p> <p>○漢文こそ音読をしましょう。音読を通して漢文独特の言い回しやリズムをまず耳から身につけることができるでしょう。そのうえで書き下し文に直したり、重要句形をおさえたり、語彙を増やすことが漢文読解につながります。また、漢文は日本の思想や文化と密接な関わりがあります。古文とのつながりも考えながら学習をすることで、その繋がりが見えてくるでしょう。</p>
--

### 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査結果</li> <li>・ワークシート記述内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査結果</li> <li>・ワークシート記述内容</li> <li>・発表時の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストの取り組み</li> <li>・授業中の行動観察</li> <li>・ペア、グループワーク時の行動観察</li> <li>・ふりかえりの記述内容</li> </ul>

### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	「書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈する」	「大江山」 「兼盛と忠見」 プログレス	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大江山」はどのような教訓を示すために収録されていると考えられるか話し合う。</li> <li>・『沙石集』の編者が、忠見のあり方をどのように評価しているか説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>・書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈することができている。(b)</li> </ul>
5	「漢文特有の表現に注意して内容を的確に捉える」	「買履忘度」 「漱石枕流」 「画竜点睛」 プログレス	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章で批判されているのは鄭人のどのような態度か考える。</li> <li>・孫子荊はどのように「漱石枕流」という言い間違いをとりつくろったのか、説明する。</li> <li>・張僧繇はどのような画家として描かれているか、本文からわかることを挙げる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(b)</li> </ul>

6	「作品の成立した背景を踏まえながら読み、内容の解釈を深める」	「初冠」 「通ひ路の関守」 「渚の院」 プロGRESS	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌について修辞法を確認する。</li> <li>・「春日野の」の歌と「みちのくの」の歌の類似点・相違点を考える。</li> <li>・「人知れぬ」の歌に込められた男の気持ちを説明する。</li> <li>・物語中の歌について、誰がどこで詠んだ歌であるかを確認し、主題を考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。(a)</li> <li>・学習課題に沿って本文を解釈しようと粘り強く取り組んでいる。(c)</li> </ul>
7 8	「漢詩の構成や展開などを的確に捉える」	「中国の詩」 プロGRESS	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの詩について、一句の字数、一首の句数、押韻を確認する。</li> <li>・それぞれの詩について対句表現を抜き出し、表現効果を考察する。</li> <li>・漢詩を創作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解している。(a)</li> <li>・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。(b)</li> </ul>
9	「漢文特有の表現に注意して内容を的確に捉え、作品を解釈する」	「鴻門之会」 「四面楚歌」 プロGRESS	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樊噲の演説を聞いてそれに答えなかった項羽の心情を考える。</li> <li>・劉邦が脱出した後の項羽と范増の心情を、劉邦からの献上品に対するそれぞれの態度を踏まえてまとめる。</li> <li>・「鴻門の会」の読解を踏まえ、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。</li> <li>・項羽は敗戦の原因をどのように考えているか、詩の一句目と二句目の表現を踏まえて考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(b)</li> </ul>
	「作品内容を自分の経験と結び付け考えを広げる」	「をばすて山」 「鳥飼の院」 プロGRESS	12	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「をば」を捨てた後再び迎えに行くまでの「男」の心情はどのようなものだったか、話し合う。</li> <li>・「あさみどり」の歌について現代語訳し、この歌が「鳥飼」という題の歌であると言えるのはどうしてか、説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>・古典の作品について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。(b)</li> </ul>
11	「漢文に表れているものの見方や考え方を踏まえ、人間に対する自分の考えを深める」	「論語」 「孟子」 「荀子」	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長沮と桀溺の孔子に対する思いを本文から読み取ってまとめる。</li> <li>・「性善」で、告子と孟子はそれぞれ人の性質と水の性質とをどのように関係づけているか、説明する。</li> <li>・性善説と性悪説とを比較して、考えたことを四百字程度でまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(a)</li> <li>・古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対す</li> </ul>

					る自分の考えを広げたり深めたりしている。(b)
12	「文章の種類を踏まえて構成や展開などを的確に捉える」	「すさまじきもの」 「東路の道の果て」 プログレス	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・第二段落では、何が「すさまじきもの」とされているかまとめる。</li> <li>・物語を読みたいと思う気持ちが表れている表現を順に抜き出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>・積極的に構成や展開をとらえ、学習の見通しをもって自分の考えを説明しようとしている。(c)</li> </ul>
1	「漢文から得られることからを現代に活かす方法を探る」	「漁父辞」 「桃花源記」 「売油翁」 プログレス	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・屈原と漁父の問答について、それぞれの考え方をまとめ、その違いについて考える。</li> <li>・段落ごとにあらすじをまとめる。</li> <li>・「売油翁」の末尾一文の意味を、典故となる『莊子』の文章を踏まえて考え、グループで話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>・古典の作品について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。(b)</li> </ul>
2	「登場人物の行動や心情をとらえ、物語を味わう」	「光源氏誕生」 「藤壺の入内」 プログレス	9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。</li> <li>・藤壺に対する光源氏の心情を説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(b)</li> </ul>

## 令和 8 年度 国語科 シラバス

科 目	古典探究	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	2 学年・理系
使用教科書	高等学校 古典探究（数研出版）				
補助教材等	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典探求 準拠ワーク（数研出版）</li> <li>・ 必携 新明説漢文（尚文出版）・必携 新明説漢文ノート（尚文出版）</li> <li>・ 理解を深める 古文単語 351（尚文出版）</li> <li>・ 改訂版これでわかる明快古典文法（いいずな書店）</li> <li>・ 改訂版これでわかる明快古典文法必修ノート（いいずな書店）</li> <li>・ 四訂版プログレス古典総演習標準編（いいずな書店）</li> </ul>				

### 1 学習の到達目標

<p>言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語での確に理解し効果的に表現する資質・能力を次のとおり育成することを目指す。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>(1) 生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めることができるようにする。【知識及び技能】</li> <li>(2) 論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、古典などを通じた先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。【思考力・判断力・表現力】</li> <li>(3) 言葉がもつ価値への認識を深めるとともに、生涯にわたって古典に親しみ自己を向上させ、我が国の言語文化の担い手としての自覚を深め、言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。【学びに向かう態度・人間性等】</li> </ol>
---

### 2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○古文はまず音読をしましょう。音読を通して古文特有の言葉、リズムをつかむことができます。</p> <p>○文章を理解するためには、基本的な古文単語を習得し、解釈に必要な古典文法の知識を確実にすることが重要です。古文単語帳活用等によりひとつずつ確実に重要古文単語を理解し覚えると同時に、教科書や問題集の予習・復習を通して古典文法を身につけていくことが大切です。また、当時の文化・生活習慣等の古典常識も学習していきましょう。</p> <p>○漢文こそ音読をしましょう。音読を通して漢文独特の言い回しやリズムをまず耳から身につけることができるでしょう。そのうえで書き下し文に直したり、重要句形をおさえたり、語彙を増やすことが漢文読解につながります。また、漢文は日本の思想や文化と密接な関わりがあります。古文とのつながりも考えながら学習をすることで、その繋がりが見えてくるでしょう。</p>
--

### 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付け、我が国の伝統的な言語文化に対する理解を深めている。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし、先人のものの見方、感じ方、考え方との関わりの中で伝え合う力を高め、自分の思いや考えを広げたり深めたりしている。	言葉を通じて積極的に他者や社会に関わったり、思いや考えを広げたり深めたりしながら、言葉がもつ価値への認識を深めようとしているとともに、進んで古典に親しみ、言葉を効果的に使おうとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査結果</li> <li>・ワークシート記述内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査結果</li> <li>・ワークシート記述内容</li> <li>・発表時の内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・小テストの取り組み</li> <li>・授業中の行動観察</li> <li>・ペア、グループワーク時の行動観察</li> <li>・ふりかえりの記述内容</li> </ul>

### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	「書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈する」	「大江山」 「兼盛と忠見」	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「大江山」はどのような教訓を示すために収録されていると考えられるか話し合う。</li> <li>・『沙石集』の編者が、忠見のあり方をどのように評価しているか説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>・書き手の考えや目的、意図を捉えて内容を解釈することができている。(b)</li> </ul>
5	「漢文特有の表現に注意して内容を的確に捉える」	「買履忘度」 「漱石枕流」	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章で批判されているのは鄭人のどのような態度か考える。</li> <li>・孫子荊はどのように「漱石枕流」という言い間違いをとりつくろったのか、説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(b)</li> </ul>
	「作品の成立した背景を踏まえながら読み、内容の解釈」	「初冠」 「通ひ路の関守」	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・歌について修辞法を確認する。</li> <li>・「春日野の」の歌と「みちのくの」の歌の類似点・相違点を考える。</li> <li>・「人知れぬ」の歌に込められた男の</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・言葉の響きやリズム、修辞などの表現の特色について理解を深めている。(a)</li> <li>・学習課題に沿って本文を解釈しよ</li> </ul>

6	を深める」			<p>気持ちを説明する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・物語中の歌について、誰がどこで詠んだ歌であるかを確認し、主題を考える。</li> </ul>	うと粘り強く取り組んでいる。(c)
7 8	「漢詩の構成や展開などを的確に捉える」	「中国の詩」	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・それぞれの詩について、一句の字数、一首の句数、押韻を確認する。</li> <li>・それぞれの詩について対句表現を抜き出し、表現効果を考察する。</li> <li>・漢詩を創作する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・時間の経過による言葉の変化や、古典が現代の言葉の成り立ちにもたらした影響について理解している。(a)</li> <li>・文章の種類を踏まえて、構成や展開などを的確に捉えている。(b)</li> </ul>
9	「漢文特有の表現に注意して内容を的確に捉え、作品を解釈する」	「鴻門之会」	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・樊噲の演説を聞いてそれに答えなかった項羽の心情を考える。</li> <li>・劉邦が脱出した後の項羽と范増の心情を、劉邦からの献上品に対するそれぞれの態度を踏まえてまとめる。</li> <li>・「鴻門の会」の読解を踏まえ、劉邦が鴻門から脱出することができた理由を考えて話し合う。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な訓読のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>・文章の種類を踏まえて、古典特有の表現に注意して内容を的確に捉えている。(b)</li> </ul>
10	「作品内容を自分の経験と結び付け考えを広げる」	「をばすて山」 「鳥飼の院」	8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「をば」を捨てた後再び迎えに行くまでの「男」の心情はどのようなものだったか、話し合う。</li> <li>・「あさみどり」の歌について現代語訳し、この歌が「鳥飼」という題の歌であると言えるのはどうしてか、説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>・古典の作品について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。(b)</li> </ul>
11	「漢文に表れているものの見方や考え方を踏まえ、人間に対する自分の考えを深める」	「論語」 「孟子」	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・長沮と桀溺の孔子に対する思いを本文から読み取ってまとめる。</li> <li>・「性善」で、告子と孟子はそれぞれ人の性質と水の性質とをどのように関係づけているか、説明する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先人のものの見方、感じ方、考え方に親しみ、自分のものの見方、感じ方、考え方を豊かにする読書の意義と効用について理解を深めている。(a)</li> <li>古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(b)</li> </ul>

12	「文章の種類を踏まえて構成や展開などを的確に捉える」	「すさまじきもの」	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 第二段落では、何が「すさまじきもの」とされているかまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>・ 積極的に構成や展開をとらえ、学習の見通しをもって自分の考えを説明しようとしている。(c)</li> </ul>
1	「漢文から得られることからを現代に活かす方法を探る」	「漁父辞」 「桃花源記」	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 屈原と漁父の問答について、それぞれの考え方をまとめ、その違いについて考える。</li> <li>・ 段落ごとにあらすじをまとめる。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>・ 古典の作品について、内容や解釈を自分の知見と結び付け、考えを広げたり深めたりしている。(b)</li> </ul>
2	「登場人物の行動や心情をとらえ、物語を味わう」	「光源氏誕生」	6	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 帝・桐壺の更衣・弘徽殿の女御の人物像について考える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 古典を読むために必要な文語のきまりについて理解を深めている。(a)</li> <li>・ 古典の作品や文章などに表れているものの見方、感じ方、考え方を踏まえ、人間、社会、自然などに対する自分の考えを広げたり深めたりしている。(b)</li> </ul>

令和 8 年度 地歴公民 科 シラバス

科目	地理探究	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	2
使用教科書	地理探究 (二宮書店) 詳解現代地図 (二宮書店)				
補助教材等	新地理要点ノート (啓隆社) 新編地理資料2024 (とうほう)				

1 学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統的に学習し、基本的な地理的認識を養う。  
現代世界の諸課題を学習し、現代の世界が抱える諸問題を認識する。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 1, 図やグラフの読み取りと考察を重視する。  
社会科目といえば、単に知識を得ることや暗記というイメージがあるかもしれませんが、地理は教科書の暗記では対応できません。文章や図、グラフから読み取りと、そこからの考察が必要です。ただ板書をノートに写すだけのような受け身の姿勢ではなく、「どんなことが考えられるか」ということを常に考えながら主体的に授業望むようにしましょう。
- 2, 基本的な事項は必ず覚える。  
「考える」といっても基本的事項が身につけていなければ、考えることすらできません。基本的な事項をきちんと覚える必要があります。基本的事項を頭に入れたうえで、それを関連づけながら資料や統計を考察し判断します。それをいかに柔軟に迅速にできるかが地理的な学力ということです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	①基本的な地理的事項について理解できているか。 ②地理的事象を理解するうえで必要な資料の見方が身についているか。	①知識・技能を活用して地理的事象を考察することが出来ているか。 ②地理的事象の背景について適切に考察することが出来ているか。	①授業への取り組みが適切であるか。 ②現代社会の事象について、地理的に深めることが出来ているか。
主な評価方法	・定期考査 ・授業中のワークシート 他	・定期考査の思考問題 ・授業中のワークシート 他	・授業中のワークシート ・課題レポート 他 ・出席、授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価基準
4 5 6 7	地形 気候	上記教材	30	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球規模の大地形</li> <li>・世界にみられる小地形</li> <li>・気候区分</li> <li>・気候変動と異常気象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の地形について大観・理解できた…(a)</li> <li>・世界の気候について大観・理解できた…(a)</li> <li>・世界の地形について防災の視点から理解できた…(b)</li> <li>・自らの地域の危険箇所について理解できた…(c)</li> </ul>
8 9 10	環境問題 農業	上記教材	40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境問題</li> <li>・農業区分</li> <li>・農業分布</li> <li>・農業の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界で発生している環境問題について大観・理解できた…(a)</li> <li>・世界の農業について大観・理解できた…(a)</li> <li>・人間活動と環境問題の関連性について理解できた…(b)</li> <li>・現代農業の課題について理解できた…(c)</li> </ul>
11 12 1 2	林業、水産業 食料問題 鉱業	上記教材	35	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林業、水産業の分布と課題</li> <li>・飢餓問題</li> <li>・地下資源の分布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の第1次産業について大観・理解できた…(a)</li> <li>・世界の飢餓問題について大観・理解できた…(a)</li> <li>・地下資源の分布について地形の視点から理解できた…(b)</li> <li>・現代社会の問題について自分の行動を見直すことができた…(c)</li> </ul>

令和 8 年度 地歴公民 科 シラバス

科目	地理探究	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	2
使用教科書	地理探究 (二宮書店) 詳解現代地図 (二宮書店)				
補助教材等	新地理要点ノート (啓隆社) 新編地理資料2024 (とうほう)				

1 学習の到達目標

現代世界の地理的事象を系統的に学習し、基本的な地理的認識を養う。  
現代世界の諸課題を学習し、現代の世界が抱える諸問題を認識する。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

1, 図やグラフの読み取りと考察を重視する。  
社会科目といえば、単に知識を得ることや暗記というイメージがあるかもしれませんが、地理は教科書の暗記では対応できません。文章や図、グラフから読み取りと、そこからの考察が必要です。ただ板書をノートに写すだけのような受け身の姿勢ではなく、「どんなことが考えられるか」ということを常に考えながら主体的に授業望むようにしましょう。

2, 基本的な事項は必ず覚える。  
「考える」といっても基本的事項が身につけていなければ、考えることすらできません。基本的な事項をきちんと覚える必要があります。基本的事項を頭に入れたうえで、それを関連づけながら資料や統計を考察し判断します。それをいかに柔軟に迅速にできるかが地理的な学力ということです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	①基本的な地理的事項について理解できているか。 ②地理的事象を理解するうえで必要な資料の見方が身についているか。	①知識・技能を活用して地理的事象を考察することが出来ているか。 ②地理的事象の背景について適切に考察することが出来ているか。	①授業への取り組みが適切であるか。 ②現代社会の事象について、地理的に深めることが出来ているか。
主な評価方法	・定期考査 ・授業中のワークシート 他	・定期考査の思考問題 ・授業中のワークシート 他	・授業中のワークシート ・課題レポート 他 ・出席、授業態度

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6 7	地形 気候	上記教材	20	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球規模の大地形</li> <li>・世界にみられる小地形</li> <li>・気候区分</li> <li>・気候変動と異常気象</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の地形について大観・理解できた…(a)</li> <li>・世界の気候について大観・理解できた…(a)</li> <li>・世界の地形について防災の視点から理解できた…(b)</li> <li>・自らの地域の危険個所について理解できた…(c)</li> </ul>
8 9 10	環境問題 農業	上記教材	26	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地球環境問題</li> <li>・農業区分</li> <li>・農業分布</li> <li>・農業の課題</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界で発生している環境問題について大観・理解できた…(a)</li> <li>・世界の農業について大観・理解できた…(a)</li> <li>・人間活動と環境問題の関連性について理解できた…(b)</li> <li>・現代農業の課題について理解できた…(c)</li> </ul>
11 12 1 2	林業、水産業 食料問題 鉱業	上記教材	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・林業、水産業の分布と課題</li> <li>・飢餓問題</li> <li>・地下資源の分布</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・世界の第1次産業について大観・理解できた…(a)</li> <li>・世界の飢餓問題について大観・理解できた…(a)</li> <li>・地下資源の分布について地形の視点から理解できた…(b)</li> <li>・現代社会の問題について自分の行動を見直すことができた…(c)</li> </ul>

令和 8 年度 地歴公民科 シラバス

科 目	日本史探求	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	2年
使用教科書	教科書「詳説日本史」(山川出版社)				
補助教材等	資料集「新詳日本史」(浜島書店)、史料集「新編史料日本史」(とうほう) 問題集「4ステージ演習ノート日本史」(数研出版)				

### 1 学習の到達目標

政治史・社会史の展開と合わせて、日本列島の文化について諸資料に基づき地理的条件や世界の歴史と関連付けながら総合的に考察させる。さらに各時代の歴史的背景に触れながら日本列島に展開した文化の特色についての認識を深めさせることによって、歴史的思考力を培い、国際社会に主体的に生きる自覚と資質を養う。適宜、発展的問題演習を行う。

### 2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 4回の考査で知識、技能、思考、判断を図る
- グループワークやレポートで主体的に学習に取り組む態度を図る

### 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、地理的条件や世界の歴史と関連づけながら総合的にとらえて理解しているか。	我が国の歴史の展開に関わる事象の意味や意義、伝統と文化の特色などを、時期や年代、推移、比較、相互の関連や現在とのつながりなどに着目して、概念などを活用して多面的・多角的に考察できているか。	我が国の歴史の展開に関わる諸事象について、よりよい社会の実現を視野に課題を主体的に探究しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察ができているか。
主な評価方法	4回の考査の知識問題	4回の考査の思考問題	グループワークやレポート。普段の授業態度

### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5	第1章～第3章 ・旧石器時代 ・縄文、弥生時代 ・飛鳥時代	上記参照	21	○日本の成り立ちについて、黎明期の日本列島の歴史的環境と文化の形成、原始社会の特色を理解する。	(a)この時代の社会の構造を理解している。 (b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 (c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。
6	第4、5章		12	○政治主体や土地支配の変容を基	(a)この時代の社会の構造を理解し

	・奈良時代 ・平安時代			に古代から中世への時代の転換を理解する。 ○中世の特色を示す適切な歴史資料を基に、資料から歴史に関わる情報を収集し、読み取る技能を身につける。	ている。 (b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 (c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。
7 8	第6章 ・鎌倉時代		12	○武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸長について理解する	(a)この時代の社会の構造を理解している。 (b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 (c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。
9 10	第7章 ・室町時代		24	○引き続き武家政権の成立と展開、産業の発達、宗教や文化の展開などを基に、武家政権の伸長について理解する	(a)この時代の社会の構造を理解している。 (b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 (c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。
11 12	第8章 ・戦国時代 (室町時代後期)		18	○戦国大名が行った政治・経済政策や対外関係を基に中世から近世への時代の転換を理解する。	(a)この時代の社会の構造を理解している。 (b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 (c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。
1 2	第9章 ・江戸時代 (前半)		18	○近世の特色について多面的・多角的に考察し、時代を通観する問いを理解、表現する。	(a)この時代の社会の構造を理解している。 (b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 (c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。

令和 7 年度 地理歴史科 シラバス

科目	世界史探究	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	2年
使用教科書	「詳説世界史探究」（山川出版社）				
補助教材等	詳説世界史探究整理ノート（山川出版社）最新世界史図説タペストリー（帝国書院） 世界史一問一答（山川出版社）				

1 学習の到達目標

<p>① 世界の歴史の諸事象について、諸資料から世界の歴史に関するさまざまな情報を調べまとめる技能を身につけるようにする。</p> <p>② 世界の歴史の意味や意義を多面的・多角的に考察したり、歴史に見られる課題を把握し解決を視野に入れて構想したりする力や、考察、構想したことを効果的に説明したり、それらを基に議論したりする力を養う。</p>
---

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○4回の考査で知識、技能、思考、判断を図る</p> <p>○グループワークやレポートで主体的に学習に取り組む態度を図る</p>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	古代から近現代の歴史の変化に関わる諸事象について、世界と日本の関係を広い視野で捉え、知識を深めるとともに、資料から歴史に関する情報を適切に理解している。	古代から近現代の歴史の変化に関わる事象について、グローバル化などの歴史の変化と周辺国との地域及び世界の歴史との関連性について考察し、表現している。 複数の資料の関係性に着目し、資料を読み取った情報の意味や意義、特色などを考察し、議論ができる。	古代から近現代の歴史の変化に関わる事象について、国家及び社会で起こりえることについて、広い視野に立って課題を主体的に理解、解決しようとしている。
主な評価方法	4回の考査の知識問題	4回の考査の思考問題	グループワークやレポート。 授業での発言、発表

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	第1章 文明の成立 と古代文明 の特質	上記参照		1 文明の誕生 2 古代オリエント文明とその周辺 3 南アジアの古代文明 4 中国の古代文明	(a)この時代の社会の構造を理解している。 (b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 (c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。
6 7	第2章 中央ユーラ シアと東ア ジア世界			1 秦・漢帝国 2 中国の動乱と変容 3 東アジア文化圏の形成	(a)この時代の社会の構造を理解している。 (b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 (c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。
8 9	第3章 南アジア世 界と東南ア ジア世界の 展開			1 仏教の成立と南アジアの統一国家 2 インド古典文化とヒンドゥー教の定着 3 東南アジア世界の形成と展開	(a)この時代の社会の構造を理解している。 (b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 (c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。
10 11	第4章 西アジアと 地中海周辺 の国家形成			1 イラン諸国家の興亡とイラン文明 2 ギリシア人の都市国家 3 ローマと地中海支配 4 キリスト教の成立と発展	(a)この時代の社会の構造を理解している。 (b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 (c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。
12 1	第5章 イスラーム 教の成立と ヨーロッパ 世界の形成			1 アラブの大征服とイスラーム政権の成立 2 ヨーロッパ世界の形成	(a)この時代の社会の構造を理解している。 (b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。 (c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。

2 3	第7章 ヨーロッパ 世界の変容 と展開		<p>1 西ヨーロッパの封建社会とその展開</p> <p>2 東ヨーロッパ世界の展開</p> <p>3 西ヨーロッパ世界の変容</p>	<p>(a)この時代の社会の構造を理解している。</p> <p>(b)この当時の人々の生活の具体相について、根拠を示して表現している。</p> <p>(c)この時期の様々な出来事について考察し、主体的に追究しようとしている。</p>
--------	------------------------------	--	---	--

## 令和 8 年度 公民科 シラバス

科目	公共	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	2 学年
使用教科書	「公共」(東京書籍)				
補助教材等	「最新公共資料集 2026」(第一学習社)「4 ステージ演習ノート公共」(数研出版)				

### 1 学習の到達目標

<p>① 現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念とともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめる技能を身に付けます。</p> <p>② 現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断する力や、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論する力を養います。</p> <p>③ よりよい社会の実現を視野に、現代の諸課題を主体的に解決しようとする態度を養うとともに、多面的・多角的な考察や深い理解を通して涵養される、現代社会に生きる人間としての在り方生き方についての自覚や、公共的な空間に生き国民主権をになう公民として、自国を愛し、その平和と繁栄を図ることや、各国が相互に主権を尊重し、各国民が協力し合うことの大切さについての自覚などを深めます。</p>
--

### 2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○新聞などにも目を通し、現代社会で起きている諸問題に興味を持つように心がけよう。</p> <p>○教科書、資料集を読み込み、予復習に力を入れよう。</p> <p>○問題集を繰り返し解き、実際に問題を解く力を身に着けよう。</p>
---

### 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	○現代の諸課題を捉え考察し、選択・判断するための手がかりとなる概念や理論について理解しているとともに、諸資料から、倫理的主体などとして活動するために必要となる情報を適切かつ効果的に調べまとめている。	○現実社会の諸課題の解決に向けて、選択・判断の手がかりとなる考え方や公共的な空間における基本的原理を活用して、事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断したり、合意形成や社会参画を視野に入れながら構想したことを議論したり表現したりしている。	○よりよい社会の実現を視野に、公共的な空間に生き国民主権を担う公民として、現代の諸課題を主体的に解決しようとしている。 ○知識及び技能を獲得したり、思考力、判断力、表現力等を身に付けたりすることに向けた粘り強い取り組みを行おうとしている。また、粘り強い取り組みを行なうなかで、自らの学習を調整しようとしている。
主な評価方法	・定期考査 ・提出課題	・定期考査 ・提出課題	・定期考査 ・提出課題

	・発問評価 ・授業態度	・発問評価 ・授業態度	・発問評価 ・授業態度
--	----------------	----------------	----------------

#### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6	第1部「公共」のとびら 第2部 自立した主体として社会に参画する私たち	教科書 資料集 演習ノート 問題集	19	・青年期と自己形成の課題 ・自己形成と社会への参画 ・個人として尊重される人間 ・公共的空間における協働とは	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。  (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
7 8 9	第1章 民主政治と私たち 第2章 法の働きと私たち	教科書 資料集 演習ノート 問題集	19	・民主主義の成立過程 ・立憲主義とは何か、憲法と法律 ・国会、内閣、裁判所、地方自治 ・政治参加と選挙制度	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。  (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
10 11 12	第3章 経済社会で生きる私たち 第4章 私たちの職業生活	教科書 資料集 演習ノート 問題集	17	・市場経済の仕組み ・国民所得と経済成長 ・財政・金融のしくみとはたらき ・労働者の権利と雇用、労働問題	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。  (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。
1 2	第5章 国際社会のなかで生きる私たち	教科書 資料集 演習ノート 問題集	15	・国際社会の成り立ち ・国際連合の役割 ・国際社会と平和主義 ・冷戦後の世界と日本	(a)学習内容を理解している。 (b)学習内容を多面的・多角的に考察し表現している。  (c)学習内容について、自分が抱いた興味・関心や疑問、追究してみたいことなどを見出して、見通しを持って学習に取り組もうとしている。


令和 8 年度 数学 科 シラバス

科目	数学Ⅱ	単位数	4	履修学年・クラス（講座）	2 学年
使用教科書	新編 数学Ⅱ （数研出版）				
補助教材等	3 T R I A L 数学Ⅱ （数研出版）				

1 学習の到達目標

数学Ⅱの学習を通して、基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り、事象を数学的に考察する能力を培い、数学のよさを認識できるようにするとともに、それらを活用する態度を育てる。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 繰り返し粘り強く学習に取り組む姿勢が重要となります。完成ノートの問題は答えを見なくても解けるようになりましょう。
- 理解できないところはそのままにせず、担当者に質問する習慣をつけましょう。
- 課題は提出日までに、計算過程を丁寧に記入し、答え合わせまで完了させて提出してください。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに、事象を数学化したり、表現したりする能力が身につけるようにする。	数や式を多面的にみたり、目的に応じて適切に変形したりする力、論理的に考察し表現する力、事象を的確に表現して、その特徴を表・式・グラフ等に表示し、問題解決をする力を養う。	数学のよさを認識し活用しようとする態度、粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度、問題解決の過程を振り返って考察を深めたり、評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
主な評価方法	・定期考査	・定期考査	・授業内の取り組みの様子 ・提出物の記載内容 等

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	第1章 式と計算	教科書 完成ノート	17	第1節 式と計算 1 3次式の展開と因数分解 2 二項定理 3 多項式の割り算 4 分数式とその経験 5 恒等式 第2節 等式・不等式の証明 6 等式の証明 7 不等式の証明	・3次の乗法公式および因数分解の公式を理解し、それらを用いて式の展開や因数分解ができる。(a) ・多項式の除法や分数式の四則計算の方法について理解し、簡単な場合について計算ができる。(a) ・式の計算をすでに学習した数と式の計算と関連付け多面的に考察できる。(b) ・実数の性質や等式の性質、不等式の性質などを基に、等式や不等式が成り立つことを論理的に考察し、証明できる。(b)

5 ・ 6	第2章 複素数と方程式	教科書 完成ノート	17	第1節 複素数と2次方程式の解 1 複素数とその計算 2 2次方程式の解 3 解と係数の関係 第2節 高次方程式 4 剰余の定理と因数定理 5 高次方程式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・数を複素数まで拡張する意義を理解し、複素数の四則計算ができる。</li> <li>・2次方程式の解の種類及び解と係数の関係について理解できる。(a)</li> <li>・因数定理について理解し、簡単な高次方程式について因数定理などを用いて方程式の解を求めることができる。(a)</li> <li>・日常の事象や社会の事象を数学的に捉え、方程式を問題解決に活用できる。(b), (c)</li> </ul>
7 ・ 8 ・ 9	第3章 図形と方程式	教科書 完成ノート	17	第1節 点と直線 1 直線上の点 2 平面上の点 3 直線の方程式 4 2直線の関係 第2節 円 5 円の方程式 6 円と直線 7 2つの円 第3節 軌跡と方程式 8 軌跡と方程式 9 不等式の表す領域	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座標を用いて、平面上の点を内分する点、外分する点の位置や2点間の距離を表すことができる。(a)</li> <li>・座標平面上の直線や円を方程式で表すことができる。(a)</li> <li>・軌跡について理解し、簡単な場合について軌跡を求めることができる。(a)</li> <li>・簡単な場合について、不等式の表す領域を求めたり領域を不等式で表したりできる。(a)</li> <li>・座標平面上の図形について構成要素間の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などと数学的に捉え、問題解決に活用したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりできる。(b), (c)</li> </ul>
9 ・ 10 ・ 11	第4章 三角関数	教科書 完成ノート	17	第1節 三角関数 1 角の拡張 2 三角関数 3 三角関数のグラフ 4 三角関数の性質 5 三角関数を含む方程式・不等式 第2節 加法定理 6 加法定理 7 加法定理の応用	<ul style="list-style-type: none"> <li>・角の概念を一般角まで拡張する意義や弧度法による角度の表し方について理解している。(a)</li> <li>・三角関数の値の変化やグラフの特徴について理解している。(a)</li> <li>・三角関数の相互関係や基本的性質について理解している。(a)</li> <li>・三角関数の加法定理や2倍角の公式、三角関数の合成について理解している。(a)</li> <li>・三角関数に関する様々な性質について考察し、三角関数の加法定理から新たな性質を導くことができる。(b)</li> <li>・三角関数の式とグラフの関係について多面的に考察することができる。(b)</li> <li>・2つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係を考察したりできる。(b), (c)</li> </ul>

11 ・ 12	第5章 指数・対数関数	教科書 完成ノート	17	第1節 指数関数 1 指数の拡張 2 指数関数 第2節 対数関数 3 対数とその性質 4 対数関数 5 常用対数	<ul style="list-style-type: none"> <li>・指数を正の数から有理数へ拡張する意義を理解し、指数法則を用いて式の計算ができる。(a)</li> <li>・指数関数の値の変化や、グラフの特徴について理解できる。(a)</li> <li>・対数の性質やその基本的性質について理解し、簡単な対数の計算ができる。(a)</li> <li>・指数と対数を相互に関連付けて考察できる。(b)</li> <li>・指数関数及び対数関数の式とグラフの関係について多面的に考察できる。(b)</li> <li>・二つの数量の関係に着目し、日常の事象や社会の事象などを多面的に捉え、問題を解決したり、解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象の関係を考察したりすることができる。(b), (c)</li> </ul>
1 ・ 2	第6章 微分法と積分法	教科書 完成ノート	17	第1節 微分係数と導関数 1 微分係数 2 導関数とその計算 3 接線の方程式 第2節 関数の値の変化 4 関数の増減と極大・極小 5 関数の増減・グラフの応用 第3節 積分法 6 不定積分 7 定積分 8 定積分と面積	<ul style="list-style-type: none"> <li>・微分係数や導関数の意味について理解し、関数の定数倍、和および差を求めることができる。(a)</li> <li>・導関数を用いて関数の値の増減や極大・極小を調べ、グラフの概形を書く方法を理解している。(a)</li> <li>・不定積分および定積分の意味について理解し、関数の定数倍、和及び差の不定積分や定積分の値を求めることができる。(a)</li> <li>・関数とその導関数の関係について考察できる。(b)</li> <li>・関数の局所的な変化に着目し、日常の事象や社会の事象などを数学的に捉えて問題を解決したり、問題解決の過程を振り返って事象の数学的な特徴や他の事象との関係について考察したりできる。(b), (c)</li> <li>・微分と積分の関係に着目し、積分の考えを用いて直線やグラフで囲まれた図形の面積を求める方法について考察できる。(b)</li> </ul>

令和 8 年度 数 学 科 シラバス

科 目	数学 B・C	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	2 学年
使用教科書	新編 数学 B (数研出版), 新編 数学 C (数研出版)				
補助教材等	3 T R I A L 数学 B, C (数研出版)				

1 学習の到達目標

<p>数学 B, C の学習を通して, 基礎的な知識の習得と技能の習熟を図り, 事象を数学的に考察する能力を培い, 数学のよさを認識できるようにするとともに, それらを活用する態度を育てる。</p>
---

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<ul style="list-style-type: none"> <li>○ 繰り返し粘り強く学習に取り組む姿勢が重要となります。完成ノートの問題は答えを見なくても解けるようになりましょう。</li> <li>○ 理解できないところはそのままにせず, 担当者に質問する習慣をつけましょう。</li> <li>○ 課題は提出日までに, 計算過程を丁寧に記入し, 答え合わせまで完了させて提出してください。</li> </ul>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	各単元についての基本的な概念や原理・法則を体系的に理解するとともに, 事象を数学化したり, 表現したりする能力が身につけるようにする。	数や式を多面的にみたり, 目的に応じて適切に変形したりする力, 論理的に考察し表現する力, 事象を的確に表現して, その特徴を表・式・グラフ等に表し, 問題解決をする力を養う。	数学のよさを認識し活用しようとする態度, 粘り強く考え数学的論拠に基づいて判断しようとする態度, 問題解決の過程を振り返って考察を深めたり, 評価・改善したりしようとする態度や創造性の基礎を養う。
主な評価方法	・定期考査	・定期考査	・授業内の取り組みの様子 ・提出物の記載内容 等

4 学習及び評価計画

※評価の観点 : (a) 知識・技能, (b) 思考・判断・表現, (c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 ~ 9	数学 B 第 1 章 数列	教科書 完成ノート	28	第 1 節 等差数列と等比数列 1 数列と一般項 2・3 等差数列, 等差数列の和 4・5 等比数列, 等比数列の和 第 2 節 いろいろな数列 6 和の記号 $\Sigma$ 7 階差数列 8 いろいろな数列の和 第 3 節 漸化式と数学的帰納法 9 漸化式 10 数学的帰納法	・等差数列と等比数列について理解し, それらの一般項や和を求めることができる。(a) ・いろいろな数列の一般項や和を求める方法について理解している。(a) ・漸化式について理解し, 事象の変化を漸化式で表したり, 簡単な漸化式で表された数列の一般項を求めたりすることができる。(a) ・事象から離散的な変化を見だし, それらの変化の規則性を数学的に表現し考察できる。(b), (c)

					<ul style="list-style-type: none"> <li>・自然数の性質などを見だし、それらについて数学的帰納法を用いて証明するとともに、他の証明方法と比較し多面的に考察できる。(b), (c)</li> </ul>
10 ～ 12	数学 C 第1章 平面上の ベクトル	教科書 完成ノート	20	第1節 ベクトルとその演算 1 ベクトル 2 ベクトルの演算 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 第2節 ベクトルと平面図形 5 位置ベクトル 6 ベクトルの図形への応用 7 図形のベクトルによる表示	<ul style="list-style-type: none"> <li>・平面上のベクトルの意味、相等、和、差、実数倍、位置ベクトル、ベクトルの成分表示について理解している。(a)</li> <li>・ベクトルの内積及びその基本的性質について理解している。(a)</li> <li>・実数などの演算の法則と関連付けて、ベクトルの演算法則について考察できる。(b)</li> <li>・ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、平面図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりできる。(b), (c)</li> </ul>
1 ～ 2	数学 C 第2章 空間の ベクトル	教科書 完成ノート	12	1 空間の点 2 空間のベクトル 3 ベクトルの成分 4 ベクトルの内積 5 ベクトルの図形への応用 6 座標空間における図形	<ul style="list-style-type: none"> <li>・座標及びベクトルの考えが平面から空間に拡張できることを理解している。(a)</li> <li>・ベクトルやその内積の基本的な性質などを用いて、空間図形の性質を見いだしたり、多面的に考察したりできる。(b), (c)</li> </ul>

令和 8 年度 理科 シラバス

科目	物 理	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	2 学年
使用教科書	数研出版 物理				
補助教材等	数研出版 フォローアップドリル物理、リードα物理				

1 学習の到達目標

日常生活で現れる運動・エネルギー・波・電気など、物理的な事象について考察し、その基本的な原理を理解する。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

○授業範囲はその日のうちに復習する。あわせて、問題集の関連単元の基本および応用問題を解く。  
 ○普段から、日常生活で起きる様々な現象や事物について興味関心を持つ。  
 ○興味や疑問に思ったことはそのままにせず、仮説を立てて・検証していく姿勢を持ってほしい。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	物理現象への理解を深め、科学的に探究するために必要な知識、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する	・定期テストやレポートにおいて評価する	・授業や家庭学習において、課題やレポート等の取り組みを評価する

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4	平面内の運動	教科書 問題集 授業プリント	9	速度  加速度	(a) 物体の速さの式を理解している。平面上の合成速度、相対速度の意味と求め方を理解している。 (b) 等速直線運動する物体の運動のようすについて説明できる。動く観測者から見た場合の、観測者と同一直線上を動く物体の運動のようすを説明できる。 (c) 日常の運動から、速さ、時間、進む距離についての関係に興味をもち、速さと速度の違いや、相対速度の意味や使い方を理解しようとしている。 (a) 加速度の定義や正負の意味を正しく理解している。等加速度直線運動を表す3つの式がどのようにして得られたかを理解し、その式やグラフを正しく運用することができる。 等加速度直線運動する物体のようすについて説明できる。

				<p>落体の運動</p> <p>(b) 加速度の意味・表し方, またこれらはグラフ上ではどのように示されるかを正しく理解し, それをもとに物体の運動のようすを考えることができる。</p> <p>(c) スタート直後の速さの比較によって, 加速度を学ぶ意味を理解しようとしている。</p> <p>(a) 水平投射と斜方投射を理解している。</p> <p>(b) 落下する物体のようすについて説明できる。</p> <p>(c) 日常の運動から, 落下する物体の運動に興味をもち, 自由落下する物体の運動, 鉛直投射された物体の運動の表し方を理解しようとしている。</p>
5	剛体  運動量の保存	教科書 問題集 授業プリント	11  運動量の保存則	<p>剛体のつり合い</p> <p>(a) 力のモーメントについて理解している。剛体のつりあいでは, 並進運動をしない条件と回転運動しない条件が必要なことを理解している。</p> <p>(b) 力のモーメントの式を理解し, うでの長さが異なるときにはたらく力の大きさについて考察できる。剛体にはたらく力がつりあうための 2 つの条件を理解し, はたらく力の間の関係について説明できる。</p> <p>(c) 剛体のつりあいには, 並進運動しない条件だけではなく, 回転運動をしない条件が必要なことを理解しようとしている。</p> <p>(a) 直線運動, 平面運動における運動量保存則を式で表現することができる。</p> <p>(b) 運動量保存則が成りたつ条件を説明することができる。</p> <p>(c) 身のまわりにある物体どうしの衝突の際に, 衝突の前後で変わらない量があり, それが運動量であること, また運動量が衝突の前後で保存する条件を理解しようとしている。</p>
6	円運動と万有引力	教科書 問題集 授業プリント	11  単振動	<p>等速円運動</p> <p>(a) 等速円運動をしている物体の回転の速度, 角速度, 周期, 回転数の諸量の定義が理解できている。等速円運動するのに必要な向心力を理解し, 運動方程式を立てられる。</p> <p>(b) 等速円運動の中心方向の運動方程式から, 物体の運動を考えることができる。一定の半径で等速円運動する物体の速さと物体にはたらく向心力の大きさの間の関係を説明できる。</p> <p>(c) 等速円運動する物体には, どのような力がはたらくているかを理解しようとしている。</p> <p>(a) 単振動の変位, 速度, 加速度の式, 運動方程式を理解している。ばね振り子の周期を表す式を導く過程を理解し, 周期や振幅, 最大の速さなどを求めることができる。単振り子の周期を表す式を導く過程を理解し, 周期を求めることができる。</p> <p>(b) 単振り子の周期の式を用いて, 重力加速度の大きさが異なる場所での運動のようすを考えることができる。ばね振り子や単振り子の周期の式を用いて, 周期と質量や周期と糸の長さの間の関係について説明できる。</p>

					(c) 往復運動の一つである単振動について、運動(振動)の最中、速度や加速度がどのように変化しているか、また周期はどのようにすれば変化するのかということを理解しようとしている。
7	円運動と万有引力	教科書 問題集 授業プリント	9	万有引力	(a) ケプラーの法則を理解している。万有引力の式を理解している。万有引力の位置エネルギーの式を用いて、力学的エネルギー保存則の式を立てることができる。 (b) 万有引力の式を用いて、異なる惑星の表面上での重力加速度の大きさを比較することができる。静止衛星とは何かを理解し、衛星の高度と周期の関係の説明ができる。だ円運動する惑星の運動について説明できる。無限遠を基準とした万有引力の位置エネルギーについて説明できる。 (c) 惑星や人工衛星が万有引力によって運動を続けていることや、その運動のようすについて理解しようとしている。
8	熱と気体	教科書 問題集 授業プリント	5	気体の法則	(a) 気体の圧力を求める式を理解できている。ボイル・シャルルの法則を用いて、状態変化後の気体の圧力、体積、絶対温度を求めることができる。理想気体の状態方程式を用いることができる。 (b) ボイル・シャルルの法則を用いて、日常に即した課題について考察することができる。気体の圧力、体積、絶対温度の関係について理解している。 (c) 気体の圧力や体積、温度を変えるとき、これらの量の間になどどのような関係が成りたっているかを理解しようとしている。
9	熱と気体	教科書 問題集 授業プリント	8	気体の状態変化	(a) 単原子分子理想気体の内部エネルギーについて理解できている。気体の状態変化の、「定積変化」、「定圧変化」、「等温変化」、「断熱変化」を、それぞれ $p$ - $V$ 図や式で表すことができる。気体のモル比熱について理解し、マイヤーの関係やポアソンの法則を適切に用いることができる。熱機関のモデルとして、サイクルの状態変化を理解し、熱効率を求めることができる。 (b) 気体の状態変化と気体がされた仕事について説明できる。定積モル比熱と定圧モル比熱の違いを正しく理解し、2 つの間に成りたつ関係について説明できる。熱機関のしくみを説明できる。 (c) 気体が状態変化をするとき、エネルギーはどのようになるのかを理解しようとしている。
10	波	教科書 問題集 授業プリント	11	波と媒質の運動	(a) 波が伝わるようすを、グラフで表現することができる。 (b) 水面を伝わる波の発生条件について説明できる。 (c) 横波と縦波の違いについて説明できる。身近な波の現象に興味をもち、波の発生原理や基本事項について理解しようとしている。

				波の伝わり方	<p>(a)定在波が生じるしくみを理解している。水面波の干渉で強めあう点と弱めあう点の条件を理解している。波の反射・屈折の際に、どのような法則があるかを理解している。</p> <p>(b)2つの波源から出た波が、強めあう条件と弱めあう条件を説明することができる。海岸に向かってくる波の波面が海岸線に対して平行になる理由を説明することができる。</p> <p>(c)波の干渉や反射、屈折、回折などの波の伝わり方に興味をもち、理解しようとしている。</p>
11	波	教科書 問題集 授業プリント	9	音の伝わり方	<p>(a)音の干渉について、音が強めあう条件と弱めあう条件を理解している。うなりについて、音の干渉の知識を用いて定量的に扱うことができる。</p> <p>(b)音を伝える際、空気などの媒質が必要であることを説明できる。冬の良く晴れた夜に遠くの音がよく聞こえる理由を説明することができる。</p> <p>(c)音が関係する現象に興味をもち、音の性質と音の伝わり方について理解しようとしている。</p>
12	波	教科書 問題集 授業プリント	9	音のドップラー効果  光の性質	<p>(a)ドップラー効果の式を用いて、観測者が聞く音の振動数を求めることができる。</p> <p>(b)音源が特定の時間だけ音を出す場合のドップラー効果について、観測者が音を観測する時間を考えることができる。運動している音源から出た音の波長が、音源の前方と後方でどのように変化するかを説明することができる。観測者が動く場合(音源は静止)のドップラー効果がなぜ起きるか説明することができる。ドップラー効果を利用した簡易スピード測定の原理について考えることができる。音源が等速円運動をする場合のドップラー効果について、その周囲で音がどのように変化するかを考えることができる。</p> <p>(c)身近な現象である音のドップラー効果に興味をもち、なぜそのような現象が起こるか理解しようとしている。</p> <p>(a)光は進んでいくとき、反射、屈折、分散、散乱を行うこと、またその際にどのような法則が成りたっているのかを理解している。</p> <p>(b)光が2つの媒質の境界面で屈折するようすの図から、どちらの媒質のほうが光が伝わるのが速いか判断できる。副虹がどのように見えるか、主虹の場合から類推して考えることができる。プリズムで白色光が分散する理由を説明することができる晴れた日の昼の空が青く、夕焼けが赤く見える理由を説明することができる。</p> <p>(c)光が関係する現象に興味をもち、光についての基本事項と光の進み方について理解しようとしている。</p>
1	波	教科書 問題集 授業プリント	6	レンズと鏡	<p>(a)レンズと鏡によって生じる像を作図することができる。また、写像公式を理解し、式を利用して像のできる位置や像の大きさなどを求めることができる。</p>

				<p>(b)凸レンズによりスクリーン上に実像ができているとき、レンズの上半分を黒い紙でおおうと像がどうなるかを説明することができる。凸レンズの焦点距離の外側に物体(光源)を置くと、どのような像が生じるか説明することができる。凸面鏡が、平面鏡よりもカーブミラーに適している理由を説明することができる。鏡に全身が映るための条件を考えることができる。お玉杓子の表面と裏面での反射について、それぞれどのように見えるかを説明することができる。</p> <p>(c)レンズや鏡に興味をもち、それによってどのような像ができるかについて理解しようとしている。</p>
2	波	教科書 問題集 授業プリント	8	<p>光の干渉と回折</p> <p>(a)ヤングの実験、回折格子、薄膜、くさび形空気層、ニュートンリングのそれぞれの光の干渉条件を理解している。</p> <p>(b)回折格子の実験で波長や格子定数を変えたときの明線の間隔の変化を考えることができる。ヤングの実験で光が強めあうときの条件を説明することができる。媒質の屈折率と光路長の間隔を説明することができる。くさび形空気層の平面ガラスに力を加えたときの縞の変化について説明することができる。</p> <p>(c)しゃぼん玉や CD・DVD が色づいて見えることについて興味をもち、光の干渉や回折の現象を理解しようとしている。</p>

## 令和 8 年度 理 科 シラバス

科 目	化学基礎	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	2 学年
使用教科書	改訂版化学基礎（数研出版）・化学（数研出版）				
補助教材等	フォローアップドリル化学基礎 物質の構成と化学結合（数研出版） フォローアップドリル化学基礎 物質と化学反応（数研出版） フォローアップドリル化学基礎 酸・塩基/酸化・還元/電池・電気分解（数研出版） フォローアップドリル化学 物質の状態（数研出版） サイエンスビュー 化学総合資料（実教出版） 2026 セミナー化学基礎+化学（第一学習社）				

### 1 学習の到達目標

1. 日常生活や社会との関連を図りながら、物質とその変化について理解するとともに、科学的に探求するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身につけるようにする。
2. 観察・実験などを行い、科学的に探求する力を養う。
3. 物質とその変化に主体的に関わり、科学的に探求しようとする力を養う。

### 2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- 授業に集中する。授業を疎かにしていると学力は身につかない。授業用のノートを用意して、創意工夫しながら自分用のノートをまとめること。
- 復習を中心に学習する。毎日短時間でもいいから化学に接する時間を作る。「フォローアップドリル」を有効に使う。毎日化学に接することによって自然と学力が身につく。
- 化学の言葉でもある「元素記号」「イオン」は早い段階で、覚えてしまう。
- 比の計算に慣れる。化学に出てくる計算は、ほとんどが比の計算である。繰り返し練習して、コツをつかむ。
- 問題集の問題を繰り返し解いて理解を確実にする。問題集用のノートを必ず用意する。計画的に進め、テストの際には指示に従って提出する

### 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	知識の習得や知識の概念的な理解，実験操作の基本的な技術の習得ができているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において，粘り強く学習に取り組んでいるか，自ら学習を調整しようとしているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する。	・定期テストやレポートにおいて判断する。	・授業や家庭学習において、課題への取り組みを評価する。

### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	「化学基礎」 第1編物質の構成 1. 物質の構成 ・純物質と混合物 ・物質とその成分 ・物質の三態と熱運動	教科書 図説 問題集 授業プリント	9	<p>物質が純物質と混合物とに分類されることを理解する。あわせて、混合物から純物質を得る分離・精製には種々の方法があることを理解し、実験を通してその操作法を体得する。</p> <p>物質が種々の元素から成りたっていることや、元素が元素記号で表されることを理解する。構成する元素の種類によって純物質が単体や化合物に分けられ、さらに単体には性質が異なる同素体があることも理解する。あわせて、成分元素の検出方法も学ぶ。</p> <p>物質に固体・液体・気体の3つの状態があることを確認し、それぞれの状態で分子の熱運動のようすが異なっていることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・混合物を分離する操作として、ろ過、蒸留、分留、昇華法、再結晶、抽出、クロマトグラフィーなどの方法をあげることができる。a</li> <li>・物質を分離する操作について説明することができる。b</li> <li>・元素の概念に興味をもつ。c</li> <li>・物質の三態について、熱運動のようすを踏まえて説明することができる。a</li> <li>・物質の状態と熱運動の関係を理解している。a</li> <li>・物質の三態について、熱運動のようすを踏まえて説明することができる。a</li> <li>・物理変化と化学変化の違いを理解している。a</li> <li>・物質を加熱したり冷却したりしたときの温度変化をグラフに表すことができる。b</li> </ul>
5	2. 物質の構成粒子」 ・原子とその構造 ・イオン ・周期表	教科書 図説 問題集 授業プリント	12	<p>原子の構造を理解し、その構成粒子の違いにより同位体が存在することを理解する。</p> <p>原子の電子配置とそれに基づく価電子の意味を理解する。</p> <p>イオンが貴ガスと同じ電子配置をとって安定化していることを理解するとともに、多原子イオンの種類や化学式を学ぶ。</p> <p>元素の性質から考え出された周期律と、それを一覧にした周期表の特徴を理解する。とくに、価電子の数の周期的変化に注目する。また、前節のイオン化エネルギーの周期的変化にも留意する。</p> <p>また、周期表上での元素の分類について、典型元素と遷移元素の特徴、金属元素と非金属元素の特徴、同族元素の名称と特徴について学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量の関係について理解している。a</li> <li>・どのような原子が安定であるか電子配置に基づいて説明できる。b</li> <li>・単原子イオンの電子配置を示すことができる。a</li> <li>・イオンのなりやすさについてイオン化エネルギーや電子親和力の値の大小と関連させて考えることができる。b</li> <li>・元素の典型・遷移、金属・非金属、陽性・陰性などの分布および同族元素について理解している。a</li> <li>・周期表の中に周期律が見いだせること、周期律は価電子の数の周期的な変化によることに気づき、価電子の数と化学的性質の関連について説明できる。</li> </ul>

6	<p>3. 粒子の結合</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・イオン結合とイオン結晶</li> <li>・共有結合と分子</li> <li>・配位結合</li> <li>・分子間にはたらく力</li> <li>・高分子化合物</li> <li>・共有結合の結晶</li> <li>・金属結合と金属結晶</li> </ul>	<p>教科書 図説 問題集 授業プリント</p>	<p>12</p> <p>原子や原子団がどのようにして電気を帯びるか、またその電気を帯びた粒子がどのような力によって結合するかを学ぶ。</p> <p>原子どうしが結合する場合、イオン結合のように粒子が電氣的な力で結びつくほかに、価電子を共有するという方法でも結びつくことを理解する。</p> <p>無数の原子が共有結合により結合した物質である共有結合の結晶の性質と、代表的な物質について学ぶ。</p> <p>無数の原子が共有結合により結合した物質である共有結合の結晶の性質と、代表的な物質について学ぶ。</p> <p>金属元素の原子どうしがイオン結合や共有結合と異なるしくみで結合することを理解し、具体的に金属が身のまわりでどのように利用されているかも学ぶ。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・イオン結晶を構成する陽イオンと陰イオンの種類から、イオン結晶の名称と組成式を書く方法を理解している。a</li> <li>・共有結合とはどのような結合であるか説明できる。a</li> <li>・さまざまな分子を分子式や電子式、構造式で表しその構造を考えることができる。a</li> <li>・原子間の共有結合を考えることによって分子の構造を予想することができる。b</li> <li>・共有結合の結晶の構造やその性質の関係を理解している。a</li> <li>・ダイヤモンドと黒鉛の性質の違いを、共有結合の強さ、結晶構造、電子の移動をもとに説明できる。b</li> <li>・金属もイオン結晶や共有結合の結晶と同じように組成式で表されることを理解している。a</li> <li>・金属特有の性質が自由電子によるものであることに気づき、金属結合および金属結晶の性質について説明できる。b</li> </ul>
7	<p>第2編物質の変化</p> <p>1. 物質質量と化学反応式</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・原子量、分子量、式量</li> <li>・物質質量</li> </ul>	<p>教科書 図説 問題集 授業プリント</p>	<p>9</p> <p>原子量、分子量、式量、物質質量の概念によって、異なる元素の原子どうしの質量が比較しやすくなることを理解する。それをもとに、分子量や式量の定義を学ぶ。</p> <p>微小な粒子を扱うとき、ある一定の量を考慮して1つの単位として扱うほうが便利であることを理解し、物質質量の概念を学ぶ。</p> <p>物質質量は化学全体にわたって必須の概念であるので、演習などを通して数値的な扱い方を体得する。また、気体については物質質量と体積も重要な関係があるのであわせて理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原子量・分子量・式量の定義を示すことができる。a</li> <li>・異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見いだすことができる。b</li> <li>・実際の物質の1mol分の量を示すことができる。a</li> <li>・実際の物質の量を物質質量で表せる。a</li> <li>・同温・同圧の気体の場合、1molの体積が共通であることを理解する。a</li> <li>・モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質質量に関する計算ができる。b</li> <li>・モル体積を用いて気体の体積と物質質量に関する計算ができる。b</li> </ul>
8	<ul style="list-style-type: none"> <li>・溶液の濃度</li> </ul>	<p>教科書 図説 問題集 授業プリント</p>	<p>3</p> <p>溶液の濃度について、質量パーセント濃度やモル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。a</li> <li>・2種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。b</li> </ul>

9	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学反応式と物質</li> <li>2. 酸と塩基の反応</li> <li>・酸, 塩基</li> </ul>	教科書 図説 問題集 授業プリント	<p>12</p> <p>化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことを学び, それをもとにして化学反応式が表す量的関係を把握できるようになる。</p> <p>また, 化学の基礎法則について, 原子説の発見までの法則と分子説発見までの法則という流れから理解する。</p> <p>酸や塩基について, アレニウスとブレンステッドの 2 つの定義を学び, 酸・塩基の反応には水素イオンが寄与していることを理解する。</p> <p>酸や塩基の価数, 電離度による強弱の分類法を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・化学反応における, 物質の量, 粒子の数, 質量, 気体の体積などの量的な関係を, 化学反応式から読み取ることができる。a</li> <li>・化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。a</li> <li>・正しい化学反応式が表せる。a</li> <li>・化学反応式の係数から, 物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。b</li> <li>・多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。b</li> <li>・化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。c</li> <li>・酸・塩基の価数, 電離度などの考え方があることを理解し説明できる。a</li> <li>・酸・塩基の性質を <math>H^+</math> と <math>OH^-</math> で考える方法と, <math>H^+</math> の授受で考える方法から, 酸と塩基を見きわめられる。b</li> </ul>
10	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水素イオン濃度とpH</li> <li>・中和反応と塩</li> </ul>	教科書 図説 問題集 授業プリント	<p>12</p> <p>弱酸・弱塩基について, 水溶液中では一部しか電離していないことを学び, 電離平衡の概念について理解する。</p> <p>水の一部が電離していることや, 水溶液の酸性や塩基性の強さを pH で表せることを理解する。</p> <p>水のイオン積について学び, 水のイオン積を用いて塩基性水溶液の pH を求められることを理解する。</p> <p>酸と塩基が中和するとき塩と水が生成することを学ぶ。また, 塩の定義と分類の方法, 塩の水溶液の性質及び弱酸・弱塩基の遊離, 揮発性の酸の遊離について理解する。</p> <p>弱酸と強塩基の塩・強酸と弱塩基の塩が水溶液中で加水分解することを学び, 塩の水溶液の液性との関係を理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・水溶液中の <math>H^+</math> の濃度を pH で表す方法を理解している。a</li> <li>・身のまわりの物質の水溶液の pH を知る方法を身につけている。a</li> <li>・pH の値から酸性, 塩基性の強弱が判断できる。b</li> <li>・水素イオン濃度と水酸化物イオン濃度の関係を用いて, 水酸化物イオン濃度から pH を求めることができる。b</li> <li>・水もまた一部が電離しているということに興味をもつ。c</li> <li>・中和反応を化学反応式で表すことができる。a</li> <li>・酸性塩・塩基性塩・正塩などの分類について理解している。a</li> <li>・塩の水溶液の酸性・中性・塩基性を判断し, 説明することができる。b</li> <li>・中和反応が <math>H^+</math> と <math>OH^-</math> の反応であることに気づく。c</li> </ul>

11	<p>・中和滴定 3. 酸化還元反応 ・酸化と還元</p>	<p>教科書 図説 問題集 授業プリント</p>	<p>9</p> <p>中和反応における量的関係, および酸・塩基の強弱との関係を理解する。また, 滴定操作により酸や塩基の濃度を求められることを実験を通して理解し, 計算方法も体得する。さらに, 滴定曲線と指示薬の関係も理解する。</p> <p>複数の電解質の混合水溶液を滴定すると, 1 種類の水溶液とは異なる pH の挙動を示すことを理解し, 滴定曲線と指示薬の関係も理解する。</p> <p>酸素や水素の授受による酸化還元反応の例を学び, 電子の授受による酸化・還元の定義を理解する。</p> <p>酸化還元反応を理解する際に酸化数の考え方が便利であることを学び, その変化から酸化還元反応の区別ができるようになる。</p>	<p>・未知の酸や塩基の濃度を, 既知の塩基や酸を用いた中和滴定により決定することができる。a</p> <p>・中和滴定で使用するホールピペット, ビュレット, メスフラスコなどの器具を正しく扱うことができる。a</p> <p>・中和の量的関係を数式で表すことができる。b</p> <p>・滴定曲線における pH 変化, 中和点, 使用できる指示薬について理解している。b</p> <p>・身近な酸・塩基の水溶液も中和滴定によって濃度が求められることに気づく。c</p> <p>・電子の授受により酸化還元反応が説明できることを理解している。a</p> <p>・酸化数を求めることによって酸化還元反応を区別することができるようになる。b</p> <p>・酸化と還元が同時に起こることに気づく。c</p>
12	<p>・酸化剤と還元剤 ・金属の酸化還元反応 ・酸化還元反応の応用</p>	<p>教科書 図説 問題集 授業プリント</p>	<p>9</p> <p>酸化剤や還元剤のはたらきと, そのときに起こる化学変化を化学反応式で表せるようになる。それをもとに酸化還元反応の量的関係も理解する。</p> <p>金属が水溶液中でイオンになる反応が酸化還元反応の一つであることと, イオンへのなりやすさ, つまり金属のイオン化傾向が金属の種類によって異なることを理解する。</p> <p>電解質水溶液と金属を利用することによって電池ができることを学び, 電池には充電のできない一次電池と充電のできる二次電池があることを理解する。</p> <p>電気分解とファラデーの法則を学び, 電気分解における反応物・生成物の量が流れた電気量と密接に関係していることを理解する。</p>	<p>・酸化還元反応の量的関係を計算により求めることができる。a</p> <p>・酸化還元反応の化学反応式を, 酸化剤・還元剤のはたらきを示す反応式からつくれるようになる。b</p> <p>・酸化還元反応における酸化剤と還元剤のはたらきを電子の授受に着目して説明できる。b</p> <p>・通常の酸と反応する金属と, 王水や酸化力をもつ酸とのみ反応する金属との違いを理解している。a</p> <p>・金属固有の性質をイオン化傾向で考えることができるようになる。b</p> <p>・金属樹ができることに興味をもつ。a</p> <p>・金属の製錬の方法について理解している。a</p> <p>・電池や金属の製錬が酸化還元反応を利用したものであることに気づく。b</p> <p>・電池の基本的なしくみについて, イオン化傾向や電子の授受に着目して説明できる。b</p>

1	<p>「化学」 第1編物質の状態 1. 固体の状態 ・結晶とアモルファス ・金属結晶 ・イオン結晶 ・分子間力と分子結晶 ・共有結合の結晶 2. 物質の状態変化 ・粒子の熱運動 ・三体の変化とエネルギー ・気液平衡と蒸気圧</p>	<p>教科書 図説 問題集 授業プリント</p>	<p>9</p> <p>金属結晶の構造について学び、それぞれの結晶格子の構造から、原子半径や充填率、密度を計算する方法を理解する。</p> <p>ファンデルワールス力や水素結合などの分子間力について復習し、分子間力によってできる分子結晶の性質や具体的な物質についての理解を深める。</p> <p>共有結合の結晶となる物質について学び、その構造と構造に起因する性質について理解する。</p> <p>状態変化に伴う熱の出入りとその名称について理解する。また、物質を構成する粒子間にはたらく力の大小と融点や沸点の関係についても理解する。</p> <p>蒸気圧や蒸気圧と沸騰の関係性、物質の状態図についても理解する。</p>	<p>・金属の結晶格子の名称や配位数、単位格子中の原子の数、充填率について理解をしている。a</p> <p>・単位格子の一辺の長さから金属の原子半径を求める方法を理解している。a</p> <p>・結晶格子に関する知識を用い、密度を求めることができる。b</p> <p>・分子間力にはファンデルワールス力や水素結合があることを理解しているa</p> <p>・気体分子の熱運動と運動エネルギー、温度の関係について理解している。a</p> <p>・状態変化の際に放出または吸収するエネルギーの名称を理解している。a</p> <p>・大気圧に関して、単位を含めて理解をしている。a</p> <p>・気液平衡、蒸気圧および蒸気圧曲線について理解する。a</p> <p>・蒸気圧曲線から物質の蒸気圧や沸点を判断することができる。b</p>
2	<p>3. 気体 ・気体の体積 ・気体の状態方程式 ・混合気体の圧力 ・実在気体</p>	<p>教科書 図説 問題集 授業プリント</p>	<p>9</p> <p>理想気体の体積や圧力、絶対温度の関係についてボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則が成り立つことを理解する。</p> <p>ボイル・シャルルの法則から理想気体の状態方程式が導かれることを理解する。また、状態方程式を利用することで、気体の分子量を求めることができることも理解する。</p> <p>混合気体について、分圧の法則について理解する。また、分圧と物質質量や体積、モル分率の関係について理解し、モル分率を用いた平均分子量の考え方や水上置換で捕集した気体の分圧についても理解する。</p> <p>実在気体と理想気体との違いについて理解する</p>	<p>・ボイルの法則、シャルルの法則、ボイル・シャルルの法則を理解し、それらの式を用いることができる。a</p> <p>・3法則を適切に用い気体の圧力や体積、温度を求めることができる。b</p> <p>・気体には状態方程式が成り立つことを理解する。a</p> <p>・状態方程式から気体の分子量や密度を求めることができる。b</p> <p>・分圧の法則について理解している。a</p> <p>・分圧や体積の比とモル分率の関係を理解している。a</p> <p>・混合気体の分圧や全圧を求めることができる。a</p> <p>・分圧の考え方をを用いて、水上置換で捕集した気体の分圧を求めることができる。b</p> <p>・理想気体と実在気体の違いについて理解している。a</p> <p>・理想気体と実在気体の違いに基づき、実在気体を理想気体に近づける条件を判断することができる。b</p>



令和 8 年度 理 科 シラバス

科 目	化学基礎	単位数	2	履修学年・クラス (講座)	2 学年 (文系)
使用教科書	改訂版 化学基礎 (数研出版)				
補助教材等	サイエンスビュー化学総合資料 (実教出版) フォローアップドリル 化学基礎 (数研出版) セミナー 化学基礎 (第一学習社)				

1 学習の到達目標

- 1 化学の基本的な概念や原理・法則の理解を深め、発展的な内容を理解する。
- 2 目的意識を持って観察実験などを行い、化学的に探究する能力と態度を育てる。
- 3 化学に興味を持ち自ら進んで理解を深めようとする態度を養う。

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

- 授業に集中する。授業を疎かにしていると学力は身につかない。授業用のノートを用意して、創意工夫しながら自分用のノートをまとめること。
- 復習を中心に学習する。毎日短時間でもいいから化学に接する時間を作る。「フォローアップドリル」を有効に使う。毎日化学に接することによって自然と学力が身につく。
- 化学の言葉でもある「元素記号」「イオン」は早い段階で、覚えてしまう。
- 比の計算に慣れる。化学に出てくる計算は、ほとんどが比の計算である。繰り返し練習して、コツをつかむ。
- 問題集の問題を繰り返し解いて理解を確実にする。問題集用のノートを必ず用意する。計画的に進め、テストの際には指示に従って提出する

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	知識の習得や知識の概念的な理解、実験操作の基本的な技術の習得ができているか。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。
主な評価方法	・定期テストにおいて評価する。	・定期テストやレポートにおいて判断する。	・授業や家庭学習において、課題への取り組みを評価する。

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
---	-----	-----	-----	---------	---------

4月	物質の構成 純物質と混合物 物質とその成分	教科書 資料集 問題集	6 物質が純物質と混合物とに分類されることを理解する。あわせて、混合物から純物質を得る分離・精製には種々の方法があることを理解し、実験を通してその操作法を体得する。 物質が種々の元素から成りたっていることや、元素が元素記号で表されることを理解する。 構成する元素の種類によって純物質が単体や化合物に分けられ、さらに単体には性質が異なる同素体があることも理解する。あわせて、成分元素の検出方法も学ぶ。 実験 混合物の分離 混合物の分離についてその方法を体得する	・混合物を分離する操作として、ろ過、蒸留、分留、昇華法、再結晶、抽出、クロマトグラフィーなどの方法をあげることができる。a ・物質を分離する操作について説明することができる。b ・元素の概念に興味をもつ。c
5月	物質の三態と熱運動  物質の構成粒子 原子とその構造	教科書 資料集 問題集	8 物質に固体・液体・気体の3つの状態があることを確認し、それぞれの状態で分子の熱運動のようすが異なっていることを理解する。あわせて、相互の変化には熱の出入りが伴うことを理解する。 原子の構造を理解し、その構成粒子の違いにより同位体が存在することを理解する。 原子の電子配置とそれに基づく価電子の意味を理解する。また、化学結合の基礎となる貴ガスの電子配置にも留意する。	・物質の三態について、熱運動のようすを踏まえて説明することができるa ・原子の構成粒子である陽子・中性子・電子の個数・電荷・質量の関係について理解している。a ・どのような原子が安定であるか電子配置に基づいて説明できる。b  (b)原子の電子配置から、その原子がどのようなイオンになりやすいかを判断できる。 (c)各元素の特徴および周期表上の元素の配列について興味をもつ。
6月	物質の構成粒子 イオン 周期表	教科書 資料集 問題集	8 イオンが貴ガスと同じ電子配置をとって安定化していることを理解するとともに、多原子イオンの種類や化学式を学ぶ。 元素の性質から考え出された周期律と、それを一覧にした周期表の特徴を理解する。とくに、価電子の数の周期的変化に注目する。また、前節のイオン化エネルギーの周期的変化にも留意する。 また、周期表上での元素の分類について、典型元素と遷移元素の特徴、金属元素と非金属元素の特徴、同族元素の名称と特徴について学ぶ。	・単原子イオンの電子配置を示すことができるa ・イオンのなりやすさについてイオン化エネルギーや電子親和力の値の大小と関連させて考えることができる。b ・元素の典型・遷移、金属・非金属、陽性・陰性などの分布および同族元素について理解している。a ・周期表の中に周期律が見いだせること、周期律は価電子の数の周期的な変化によることに気づき、価電子の数と化学的性質の関連について説明できる。b

7月	粒子の結合 イオン結合とイオン結晶 共有結合と分子	教科書 資料集 問題集	6	原子や原子団がどのようにして電気を帯びるか、またその電気を帯びた粒子がどのような力によって結合するかを学ぶ。 さらに、イオンからなる物質の種類や表し方・特徴的な性質を理解する。 原子どうしが結合する場合、イオン結合のように粒子が電氣的な力で結びつくほかに、価電子を共有するという方法でも結びつくことを理解する。 さらに、共有結合からなる物質を表す方法として、分子式をはじめ電子式や構造式を学ぶ。	・イオン結晶を構成する陽イオンと陰イオンの種類から、イオン結晶の名称と組成式を書く方法を理解している。a ・共有結合とはどのような結合であるか説明できる。a ・さまざまな分子を分子式や電子式、構造式で表しその構造を考えることができる。a ・原子間の共有結合を考えることによって分子の構造を予想することができる。b
8月	配位結合 分子間にはたらく力	教科書 資料集 問題集	2	共有結合の特別な場合である配位結合について学び、それをもつ錯イオンについても理解する。 電子を引きつける強さの尺度ともいえる電気陰性度を理解し、共有結合において原子が電子を引きつける強さの違いにより電子のかたよりが生じて、電氣的に正の部分と負の部分ができることを学ぶ。その結果、分子の形によって分子全体として極性が打ち消される分子と打ち消されない分子とが存在し、極性の有無によって溶媒への溶けやすさが異なることを学ぶ。 加えて、分子間力によって形成される分子結晶の性質と分子結晶からなる代表的な物質について学ぶ。	・配位結合が含まれる錯イオンの成り立ちを理解している。a ・極性を電気陰性度の違いによる電荷のかたよりと分子の形から理解している a ・分子の形を予想して、極性分子と無極性分子に分類できる b ・分子には極性分子と無極性分子があることに興味を持つc
9月	高分子化合物 共有結合の結晶 金属結合と金属結晶	教科書 資料集 問題集	8	比較的小さな分子が多数共有結合でつながった高分子化合物について学ぶ。 無数の原子が共有結合により結合した物質である共有結合の結晶の性質と、代表的な物質について学ぶ。 金属元素の原子どうしがイオン結合や共有結合と異なるしくみで結合することを理解し、具体的に金属が身のまわりでどのように利用されているかも学ぶ。	・共有結合の結晶の構造やその性質の関係を理解している。a ・ダイヤモンドと黒鉛の性質の違いを、共有結合の強さ、結晶構造、電子の移動をもとに説明できる。b ・金属もイオン結晶や共有結合の結晶と同じように組成式で表されることを理解している。a ・金属特有の性質が自由電子によるものであることに気づき、金属結合および金属結晶の性質について説明できる。b
10月	物質と化学反応式 原子量・分子量・式量	教科書 資料集 問題集	8	原子量と分子量の概念によって、異なる元素の原子どうしの質量が比較しやすくなることを理解する。それをもとに、分子量や式量の定義を学ぶ。	・原子量・分子量・式量の定義を示すことができる。a ・異なる質量の原子が混在する場合、その平均の質量を表す方法を見

	物質質量			<p>微小な粒子を扱うとき、ある一定の量を考えて 1 つの単位として扱うほうが便利であることを理解し、物質質量の概念を学ぶ。</p> <p>物質質量は化学全体にわたって必須の概念であるので、演習などを通して数値的な扱い方を体得する。また、気体については物質質量と体積も重要な関係があるのであわせて理解する。</p>	<p>いだすことができる。b</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・実際の物質の 1mol 分の量を示すことができる。a</li> <li>・実際の物質の量を物質質量で表せる。a</li> <li>・同温・同圧の気体の場合、1mol の体積が共通であることを理解する。a</li> <li>・モル質量の概念を使い、粒子の数・質量と物質質量に関する計算ができる。b</li> <li>・モル体積を用いて気体の体積と物質質量に関する計算ができる。b</li> </ul>
11月	<p>溶液の濃度</p> <p>化学反応式と物質質量</p>	教科書資料集問題集	6	<p>溶液の濃度について、質量パーセント濃度やモル濃度の定義を学び、扱いに慣れる。</p> <p>固体の溶解度の表し方と溶解度曲線について理解し、溶解量や再結晶における析出量の計算方法を身につける。</p> <p>化学変化を化学反応式やイオン反応式で表すことを学び、それをもとにして化学反応式が表す量的関係を把握できるようになる。</p> <p>また、化学の基礎法則について、原子説の発見までの法則と分子説発見までの法則という流れから理解する。</p> <p>実験：気体の発生量と化学反応式</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・濃度の表し方について、いろいろな方法があることを理解している。a</li> <li>・2 種類の濃度の求め方を理解し、その換算ができる。b</li> <li>・化学反応における、物質質量、粒子の数、質量、気体の体積などの量的な関係を、化学反応式から読み取ることができる。a</li> <li>・化学反応式を用いて量的な計算を行うことができる。a</li> <li>・正しい化学反応式が表せる。a</li> <li>・化学反応式の係数から、物質の量的変化を質量や気体の体積変化でとらえることができる。b</li> <li>・多くの化学変化は化学反応式で表されることがわかる。b</li> <li>・化学反応式をもとに量的な関係をつかむことができる。c</li> </ul>
12月	<p>酸と塩基の反応</p> <p>酸・塩基</p> <p>水素イオン濃度と pH</p> <p>中和反応と塩</p>	教科書資料集問題集	6	<p>酸や塩基について、アレニウスとブレンステッドの 2 つの定義を学び、酸・塩基の反応には水素イオンが参与していることを理解する。</p> <p>酸や塩基の価数、電離度による強弱の分類法を理解する。</p> <p>水の一部が電離していることや、水溶液の酸性や塩基性の強さを pH で表せることを理解する。</p> <p>酸と塩基が中和するとき塩と水が生成することを学ぶ。また、塩の定義と分類の方法、塩の水溶液の性質及び弱酸・弱塩基の遊離、揮発性</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸・塩基の価数、電離度などの考え方があることを理解し説明できる。a</li> <li>・酸・塩基の性質を <math>H^+</math> と <math>OH^-</math> で考える方法と、<math>H^+</math> の授受で考える方法から、酸と塩基を見きわめられる。b</li> <li>・水溶液中の <math>H^+</math> の濃度を pH で表す方法を理解している。a</li> <li>・身のまわりの物質の水溶液の pH を知る方法を身につけている。a</li> <li>・pH の値から酸性、塩基性の強弱が判断できる。b</li> <li>・水素イオン濃度と水酸化物イオン</li> </ul>

				<p>の酸の遊離について理解する。</p>	<p>濃度の関係を用いて、水酸化物イオン濃度から pH を求めることができる。b</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・水もまた一部が電離しているということに興味をもつ。c</li> <li>・中和反応を化学反応式で表すことができる。a</li> <li>・酸性塩・塩基性塩・正塩などの分類について理解している。a</li> <li>・塩の水溶液の酸性・中性・塩基性を判断し、説明することができる。b</li> <li>・中和反応が <math>H^+</math> と <math>OH^-</math> の反応であることに気づく。c</li> </ul>
1月	<p>中和滴定</p> <p>酸化還元反応 酸化と還元 酸化剤と還元剤</p>	<p>教科書 資料集 問題集</p>	6	<p>中和反応における量的関係、および酸・塩基の強弱との関係を理解する。また、滴定操作により酸や塩基の濃度を求められることを実験を通して理解し、計算方法も体得する。さらに、滴定曲線と指示薬の関係も理解する。</p> <p>酸素や水素の授受による酸化還元反応の例を学び、電子の授受による酸化・還元の定義を理解する。</p> <p>酸化還元反応を理解する際に酸化数の考え方が便利であることを学び、その変化から酸化還元反応の区別ができるようになる。</p> <p>酸化剤や還元剤のはたらきと、そのときに起こる化学変化を化学反応式で表せるようになる。それをもとに酸化還元反応の量的関係も理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・未知の酸や塩基の濃度を、既知の塩基や酸を用いた中和滴定により決定することができる。a</li> <li>・中和滴定で使用するホールピペット、ビュレット、メスフラスコなどの器具を正しく扱うことができる。a</li> <li>・中和の量的関係を数式で表すことができる。b</li> <li>・滴定曲線における pH 変化、中和点、使用できる指示薬について理解している。b</li> <li>・身近な酸・塩基の水溶液も中和滴定によって濃度が求められることに気づく。c</li> <li>・電子の授受により酸化還元反応が説明できることを理解している。a</li> <li>・酸化数を求めることによって酸化還元反応を区別することができるようになる。b</li> <li>・酸化と還元が同時に起こることに気づく。c</li> </ul>
2月	<p>金属の酸化還元反応 酸化還元反応の利用</p>	<p>教科書 資料集 問題集</p>	6	<p>金属が水溶液中でイオンになる反応が酸化還元反応の一つであることと、イオンへのなりやすさ、つまり金属のイオン化傾向が金属の種類によって異なることを理解する。</p> <p>また、金属のイオン化傾向と金属単体の化学的性質が密接に関係していることを学ぶ。</p> <p>電解質水溶液と金属を利用することによって電池ができることを学び、電池には充電のできない一次電池と充電のできる二次電池があることを</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酸化還元反応の量的関係を計算により求めることができる。a</li> <li>・酸化還元反応の化学反応式を、酸化剤・還元剤のはたらきを示す反応式からつくれるようになる。b</li> <li>・酸化還元反応における酸化剤と還元剤のはたらきを電子の授受に着目して説明できる。b</li> <li>・通常の酸と反応する金属と、王水や酸化力をもつ酸とのみ反応する金属との違いを理解している。a</li> </ul>

			<p>理解する。 あわせて、金属を鉱石から得る製錬の手法についても理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・金属固有の性質をイオン化傾向で考えることができるようになる。b</li> <li>・金属樹ができることに興味をもつ。a</li> <li>・金属の製錬の方法について理解している。a</li> <li>・電池や金属の製錬が酸化還元反応を利用したものであることに気づく。b</li> <li>・電池の基本的なしくみについて、イオン化傾向や電子の授受に着目して説明できる。b</li> </ul>
--	--	--	---	---

令和 8 年度 理 科 シラバス

科 目	生物	単位数	3	履修学年・クラス (講座)	2 学年 理系
使用教科書	生物 (数研出版)				
補助教材等	リードα 生物基礎+生物 (数研出版) スクエア最新図説生物 (第一学習社)				

1 学習の到達目標

<p>「生物の進化」、「細胞と分子」、「代謝」、「遺伝情報の発現と発生」について学習する。 生物基礎で学習したことをふまえて、生物に関する知識を身につけると共に、科学的な思考力や判断力を養う。 観察・実験などを行い、生命現象に主体的に関わり、科学的に探求する力を養う。</p>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>○授業に集中すること。また、自分の知識と結びつけ、自分自身との関連性を見いだしながら「なぜそうなのか。」「どうしてそうあるのか。」と常に主体的な姿勢を持って取り組んで下さい</p> <p>○授業があった日のうちに必ず復習を行うこと。授業で触れた図やグラフは実際に自分で色分けしながらノートに書いてみると、視覚的にも理解が深まります</p> <p>○自分が興味を持った分野に関連した一般書も読んで下さい。大きな視野で生物がとらえられるし、生物に関する知識や理解が幅広いものとなり、生物学的センスが磨かれます。読解力を養うようにしてください。</p> <p>○</p>
---

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	生命現象への理解を深め、科学的に探究するために必要な観察、実験などに関する基本的な技能を身に付ける。	習得した「知識・技能」を活用して課題を解決できる思考力・判断力・表現力などを身につけているか。	知識・技能の習得や思考力・判断力・表現力などを身につける過程において、粘り強く学習に取り組んでいるか、自ら学習を調整しようとしているか。
主な評価方法	・ 定期テストにおいて評価する ・	・ 定期テストやレポートにおいて評価する ・	・ 授業において、課題や実験レポートの取り組みを評価する ・

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4	第1章 生物の進化 1. 生命の起源と生物の進化 2. 遺伝子の変化と多様性	教科書 資料集 問題集	9	生命の起源として、無機物から有機物が生じ、有機物の集まりから「細胞」が生じたと考えられていることを理解する。生物が代謝を通じて地球の環境を変化させてきたこと、地球の環境の影響を受けて生物が進化してきたことを理解する。 生物の形質の変化は、遺伝子の変化によって生じることを理解する。突然変異によって、遺伝的な多様性が生じることを理解する。	・生命の起源について、化学進化を経て生命が誕生したことを理解する。a ・細胞の進化によって地球環境が変化したり、地球環境の変化が進化に影響したりしてきたことを理解する。a ・学習したことをもとに、最初の生物が地上ではなく海洋中で誕生した理由について考え、説明することができる。bc ・生物の形質の変化が、突然変異によって生じることを理解する。a ・遺伝子が変わると、遺伝子をもとにつくられるタンパク質が変化し、その結果形質が変化することを見いだすことができる。b
5	3. 遺伝子の組み合わせの変化 4. 進化のしくみ	教科書 資料集 問題集	12	減数分裂の過程では、染色体の乗換えによって遺伝子の組換えが起こることを理解する。有性生殖においては、親から子へと遺伝子が受け継がれる過程で、遺伝子の組み合わせが変化することを理解する。 遺伝的浮動と自然選択によって遺伝子頻度が変化することを理解する。隔離によって種分化が生じやすくなることを理解する。	・減数分裂の過程で、染色体の乗換えにより遺伝子の組換えが起こることを理解する。a ・連鎖と組換えのしくみを理解する。a ・遺伝子の組み合わせの変化に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。c ・自然選択と遺伝的浮動によって遺伝子頻度が変化することを理解する。a ・鎌状赤血球貧血症とマラリアの発生に関連がある理由について考え、説明することができる。b
6	5. 生物の系統と進化 6. 人類の系統と進化	教科書 資料集 問題集	12	DNA の塩基配列やタンパク質のアミノ酸配列から、生物の系統を推定できることを理解する。生物が、系統に基づいて3つのドメインに分類されることを理解する。 人類が、霊長類のうちの類人猿から進化したことを理解する。人類の特徴として、直立二足歩行をすることが重要であることを理解する。	・隔離を経て種分化が生じることを理解する。a ・進化のしくみに関心を持ち、主体的に学習に取り組める。c ・塩基配列やアミノ酸配列によって、生物の系統を推定できることを理解する。a ・ドメイン、界、門などの分類群について理解する。a ・あるタンパク質の、アミノ酸配列の差異をもとに生物の系統が推定できることを見いだすことができる。bc ・人類は直立二足歩行を行うという点で他の生物とは異なることを理解

					<p>する。a</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・直立二足歩行を行うことのデメリットについて考えたり調べたりしてまとめ、説明することができる。b</li> </ul>
7	<p>第2章 細胞と分子</p> <p>1. 生体物質と細胞</p> <p>2. タンパク質の構造と性質</p>	教科書資料集問題集	9	<p>細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。</p> <p>細胞の生命活動を担うタンパク質の構造について理解する。タンパク質の構造と機能との密接な関係について理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・細胞を構成する代表的な物質とその特徴について理解する。a</li> <li>・生物の基本単位である細胞の構造とその機能について理解する。a</li> <li>・生体膜において、リン脂質分子がどのように配置されているかを、リン脂質分子の構造をもとに考えることができる。b</li> <li>・タンパク質の構造と機能との関係について理解する。a</li> <li>・タンパク質の立体構造が、タンパク質の機能と密接に関係していることを理解し、説明することができる。bc</li> </ul>
8	<p>3. 化学反応にかかわるタンパク質</p>	教科書資料集問題集	3	<p>酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解する。酵素反応を調節するしくみについて理解する。</p> <p>実験: 脱水素酵素のはたらき</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・酵素の基本的な性質と、酵素がはたらく反応条件について理解する。a</li> <li>・酵素反応を調節するしくみについて理解する。a</li> <li>・化学反応にかかわるタンパク質に関心を持ち、主体的に学習に取り組めるc</li> </ul>
9	<p>4. 膜輸送や情報伝達にかかわるタンパク質</p> <p>第3章 代謝</p> <p>1. 代謝とエネルギー</p>	教科書資料集問題集	12	<p>生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。</p> <p>生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生体膜を介した物質輸送と、それにかかわるタンパク質のはたらきについて理解する。a</li> <li>・情報伝達にかかわる受容体タンパク質のはたらきについて理解する。a</li> <li>・情報伝達物質を介した細胞間の情報伝達がうまくいかない場合の原因について、これまでに学習した生命現象を例にあげて説明することができる。b</li> <li>・生体内で起こる化学反応の一部は酸化還元反応であり、反応に際して大きなエネルギーの出入りを伴うことを理解する。a</li> <li>・生体内の化学反応のうち、酸化還元反応を伴う反応では、大きなエネルギーの出入りが起こることを理解し、説明することができる。bc</li> </ul>
10	<p>2. 呼吸と発酵</p> <p>3. 光合成</p>	教科書資料集問題集	12	<p>呼吸では、有機物が酸化されるのに伴う一連の酸化還元反応によってエネルギーが取り出され、ATP が合成されることを理解する。発酵では、酸素を用いずに有機物が分解され、ATP が合成されることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸では有機物が酸化され、その際に取り出されたエネルギーを用いて ATP が合成されることを理解する。a</li> <li>・発酵では酸素を用いずに有機物が分解され、ATP が合成されることを</li> </ul>

				<p>光合成では、光エネルギーを用いて ATP と電子の運搬体が合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。</p> <p>実験：光合成色素の分離</p>	<p>理解する。a</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・呼吸基質と呼吸商の関係を理解し、与えられた呼吸商をもとに、各呼吸基質の分解に使われた酸素の割合を計算することができる。b</li> <li>・光合成では、光エネルギーを用いて ATP と NADPH が合成され、これらを用いて二酸化炭素が還元されて有機物が生じることを理解する。a</li> <li>・光合成において、葉緑体のチラコイド内外の H<sup>+</sup> の濃度差と、ATP 合成速度の関係を調べるのに必要な実験を考え、説明することができる。b</li> <li>・光合成に関心をもち、主体的に学習に取り組める。c</li> </ul>
11	<p>第 4 章 遺伝情報の発現と発生</p> <p>1. DNA の構造と複製</p> <p>2. 遺伝情報の発現</p>	教科書 資料集 問題集	9	<p>DNA について、2 本のヌクレオチド鎖の方向性をふまえた詳しい構造を理解する。DNA が正確に複製される詳しいしくみを理解する。</p> <p>DNA の遺伝情報を写し取って、RNA が合成されるしくみを理解する。転写された RNA から、タンパク質が合成されるしくみを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・DNA の複製のしくみを理解する。a</li> <li>・DNA の複製に関する資料に基づいて、DNA の複製のしくみを見いだすことができる。b</li> <li>・遺伝情報の発現のしくみを理解する。a</li> <li>・真核生物と原核生物の遺伝情報の発現の過程を表した資料を比較し、遺伝子発現の過程の違いを見いだすことができる。b</li> <li>・遺伝情報の発現に関心をもち、主体的に学習に取り組める。c</li> </ul>
12	3. 遺伝子の発現調節	教科書 資料集 問題集	9	<p>遺伝子の発現が、環境の変化などに応じて変化することを理解する。原核生物と真核生物において、それぞれの遺伝子発現が調節されるしくみを理解する</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・原核生物と真核生物において、遺伝子の発現が調節されるしくみを理解する。a</li> <li>・ラクトースオペロンに突然変異が生じた 2 種類の突然変異株に野生株の DNA を導入する実験の結果に基づいて、それぞれの突然変異株について DNA のどの領域に異常があったのかを推定することができる。b</li> </ul>
1	4. 発生と遺伝子発現	教科書 資料集 問題集	9	<p>発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。細胞の分化を引き起こす遺伝子の発現調節は、細胞内の物質のはたらきや、他の細胞からのはたらきかけによって起こることを理解する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・発生の過程で、遺伝子の発現調節によって細胞が分化するしくみを理解する。a</li> <li>・同じ遺伝情報をもつ細胞が異なる細胞に分化する要因として、細胞質に含まれる物質が分裂の際に不均等に分配されることや、周囲の細胞からの誘導があることを理解し、説明することができる。b</li> </ul>
2	5. 遺伝子を扱う技術	教科書 資料集 問題集	9	<p>遺伝子を扱うさまざまな技術について、その原理を理解する。遺伝子を扱うさまざまな技術が、私たちの生</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・遺伝子を扱う技術について、その原理と有用性を理解する。a</li> <li>・遺伝子組換え技術によって、ある</li> </ul>

				活に与える影響を理解する。	生物の遺伝子を別の生物に発現させることができる理由を考え、説明することができる。b ・遺伝子を扱う技術に関心を持ち、主体的に学習に取り組める。c
--	--	--	--	---------------	---

令和 8 年度 理 科 シラバス

2 学 年  (普通科)	教 科・科 目	理科 ・ 地学基礎		
	単 位 数	2 単 位	担当者	矢澤
教科書・ 副教材	地学基礎 (啓林館) スクエア 最新図説地学 (第一学習社) セミナー地学基礎 (第一学習社)			
学習の目標	私たちが生活する地球の構造, 地震や火山活動の原因, 災害について理解する。 地球を取り巻く宇宙の構造や, 誕生から現在までの地球の変遷について理解する。			
学 習 の 内 容 ・ 授 業 計 画 な ど				
学 期 (予定時数)	学 習 内 容	学 習 の ね ら い	考査範囲	
前期 (35)	第 1 部: 固体地球とその活動	私たちの生活する地球について, どれほどのことをしているだろうか。大いなるスケールを持つ地球の構造と, ダイナミックな地球の活動を実際の現象と関連づけて理解する。	中間考査	
	第 2 部: 大気と海洋	日本には四季がある。明瞭な四季は大気, 海洋の影響を受けている。大気や海洋は地球全体をめぐるように運動しており, 太陽から届くエネルギー (太陽放射) が原動力となっている。これらを関連づけて理解する。	期末考査	
後期 (35)	第 3 部: 移り変わる地球 第 1 章: 地球の誕生	我々の体は星のかけらからできている。酸素や炭素など様々な種類の元素は宇宙の進化の中で恒星が作り出した。宇宙の構造と, 宇宙の誕生から現在までの時間的な変化を理解する。	中間考査	
	第 3 部: 移り変わる地球 第 2 章: 地球と生命の進化 第 3 章: 地球史の読み方 第 4 部: 自然との共生	誕生当時の地球は生物の住めるような環境ではなかった。長い時間をかけて多様な生命に満ちた現在の姿となった。生物の変遷を地球環境の変化と関連づけて理解する。また, その情報は地層や化石に記録されており, 読み取り方についても理解する。  ここまで学習した内容を振り返り, 地球環境と人類の生活について関連づけて理解する。	期末考査	

評価方法	①定期考査4回（前期・後期の中間・期末） ②提出物（ノート、レポートなど） ③授業に取り組む態度 ④出欠席数
学習方法	別 掲
備 考	

科目	体育	単位数	3	履修学年・クラス（講座）	2年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
補助教材等	なし				

## 1 学習の到達目標

- ①各種の運動の特性に応じた技能等及び社会生活における健康・安全について理解するとともに、技能を身に付けるようにする。
- ②運動や健康についての自他や社会の課題を発見し、合理的、計画的な解決に向けて思考し判断するとともに、他者に伝える力を養う。
- ③生涯にわたって継続して運動に親しむとともに健康の保持増進と体力の向上を目指し、明るく豊かで活力ある生活を営む態度を養う。
- ※体育理論については、スポーツのルールを理解すること、スポーツの意義について知ること、体の仕組みを理解し体力の向上に意欲を示すことを目標とする。

## 2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○原則として、全ての種目を履修・習得すること。長期間（概ね20日以上）の欠席及び見学は、医師による診断書の提出が必要になる場合があるので相談して下さい。

- 
- 
- 

## 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・運動の技術の名称や 行い方、体力の高め方、 課題解決の方法、練習 の仕方、運動を行う際 の健康・安全の確保の 仕方についての具体的 な方法を理解してい る。	与えられた課題を解決す るために論理的に考え、 解決するために正しく判 断できている。また、仲 間と相談し、より良い解 決に導こうとしている。	・自ら進んで運動の楽しさや喜 びを味わおうとする。健康や安 全を確保して学習に主体的に取 り組もうとしている。
主な評価方法	・実技テスト （記録計測、チーム戦 績、技能の完成度） ・観察及び完成度 ・レポート等	・観察及び完成度	・観察及び完成度 ・レポート等

## 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5	体づくり運動 陸上競技 体育理論	ストレッチ ウォーキング 持久走 スポーツテスト	8	活動的な運動・静的な運動、ウォーキング・ジョッキング等により体力を高める。 持久走により、有酸素能力の向上に努める。 スポーツテストの実施により、自己の体力要素を把握する。	1. 知識・技能 2. 思考・判断・表現 3. 主体的に学習に取り組む態度 ※上記の3つの観点から種目ごとに総合的に評価する。
5 6	球技	男子 ソフトボール 女子 バレーボール	12	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
6 7	水泳 体育理論	クロール 平泳ぎ 体育編 運動・スポーツの学び方（後半）	12	クロール・平泳ぎの基本的な技術を体得し、より長く泳げるようにする。 記録測定。 体育理論についてはスポーツの意義などについて知る。	
8 9	球技	男子 バレーボール 女子 ソフトボール	12	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
10	陸上競技		8	持久走により、有酸素能力の向上に努める。記録測定。	
10 11	球技	男子 サッカー 女子 バスケットボール	12	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
11 12 1	球技	男子 バスケットボール 女子 フットサル	12	集団的要素と個人技能を習得し、スポーツの楽しさを体験する。	
1 2	球技 体育理論	バドミントン 体育編 豊かなスポーツライフの設計	12	バドミントンは、ダブルスを通じて、ペア（集団）の中の個の技能と動き方を習得し、その楽しさを体得する。 生涯にわたりスポーツと豊かに関わるためのスポーツライフの設計の仕方について学ぶ。	

科目	保健	単位数	1	履修学年・クラス（講座）	2 学年
使用教科書	大修館書店 新高等保健体育				
補助教材等	なし				

## 1 学習の到達目標

健康・安全について理解を深め、ヘルスプロモーションの考え方を身に付ける。また、生涯を通じて自らの健康を適切に管理し、向上させる資質や能力を身につける。

近年、問題視されている様々な問題から、環境・こころや体についての課題を把握し、個人の健康の保持増進に活用していく。

## 2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○教科書を中心に授業を行う。必要に応じて、黒板やパワーポイント、動画学習を用いて、幅広い知識を習得する。

- 
- 
- 

## 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	近年問題視されている健康問題や環境問題について、個人が関心を持ち、適切に意思決定・行動選択を行い、健康で安全な生活を送ることができるよう、日々学習に取り組んでいる。	健康的な生活を送るための適切な行動について、論理的に考え、適切に判断できるようになる。	生涯にわたって健康的な生活を送るために、必要な知識と行動選択の仕方を理解しようとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期末考査</li> <li>・ 課題の提出</li> <li>・ 観察及び記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 観察及び記録</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 期末考査</li> <li>・ 観察及び記録</li> <li>・ 課題の提出</li> </ul>

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
前期	第3章 生涯を通じる健康	教科書 プリントなど	18	①思春期と健康 ②性意識の変化と性行動の選択 ③結婚生活と健康 ④妊娠・出産と健康 ⑤家族計画 ⑥加齢と健康 ⑦高齢者に対応した取り組み ⑧働くことと健康 ⑨労働災害の防止 ⑩働く人の健康づくり	①知識・技能 ②思考・判断・表現 ③主体的に学習に取り組む態度 ④考査得点 ⑤出欠席数 以上を総合的に判断し評価する。
後期	第2章 健康を支える環境づくり	教科書 プリントなど	17	①大気汚染と健康 ②水質汚濁・土壌汚染と健康 ③健康被害を防ぐための環境対策 ④環境衛生に関わる活動 ⑤食品の安全性と健康 ⑥食品の安全性を確保する取り組み ⑦保健制度とその活用 ⑧医療制度とその活用 ⑨医薬品の制度とその活用 ⑩様々な保健活動や対策 ⑪誰もが健康に過ごせる社会に向けた環境づくり	

令和 8 年度 芸術 音楽科 シラバス

科目	音楽Ⅱ	単位数	2単位	履修学年・クラス（講座）	2学年
使用教科書	・MOUSA 1（教育芸術社）				
補助教材等					

1 学習の到達目標

音楽の諸活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽、音楽文化と深くかかわる資質・能力を育成することを目指す。

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

○グループワークやアンサンブル等、仲間との活動が多くなります。仲間の話をよく聞いたり、自分の考えを伝えるなど、コミュニケーションを大切にしてください。

○わかることやできることは、仲間に教えてあげましょう。わからないことやできないことは、仲間に教えてもらいましょう。

○自ら楽しむこと、楽しい雰囲気を作るように心掛けることが、楽しい授業になるポイントです。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲想と音楽の構造や曲の背景との関わり及び、音楽の多様性について理解しているか</li> <li>・創意工夫を生かした音楽表現をするために必要な知識や技能を身につけているか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分のイメージをもって音楽表現を創意工夫しているか</li> <li>・音楽のよさや美しさを自ら味わって聴くことができるか</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音楽や音楽文化に関心を持ち、積極的に音楽表現や鑑賞に取り組もうとしているか</li> </ul>
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの様子</li> <li>・提出物の内容</li> <li>・実技や発表、作品などの内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・取り組みの様子</li> <li>・提出物の内容</li> <li>・実技や発表、作品などの内容</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・出席状況</li> <li>・取り組みの様子</li> <li>・提出物の内容</li> <li>・実技や発表、作品などの内容</li> </ul>

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
---	----	----	----	------	------

4 5 6 7 8 9	①歌唱  ②器楽  ③創作  ④楽典	教科書・補助 教材	36	①独唱・合唱  ②ギター演奏  ③短い旋律の創作  ④和音・コードネーム	③歌詞や曲想を理解し、表現を工夫して歌うことができる(abc)  ②基本的な奏法や楽譜の読み方を理解し演奏することができる(abc)  ③自分の表したいイメージに合う旋律を考えることができる(abc)  ④和音の仕組みについて理解している(ac)
10 11 12 1 2 3	⑤器楽/歌唱  ⑥鑑賞  ⑦器楽	教科書・補助 教材	34	⑤弾き歌い  ⑥伝統芸術の鑑賞・実技  ⑦アンサンブル	⑤コードネームを用いて弾き歌いをする(abc)  ⑥日本・海外の伝統的な芸術を鑑賞・演奏することで、理解を深め、技能を身につけている(abc)  ⑦それぞれの楽器の特色や各パートの役割を理解し、表現を工夫して演奏することができる(abc)

令和 8 年度 芸術 科 シラバス

科 目	美術Ⅱ	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	2 学年
使用教科書	高校生の美術 2 日本文教出版				
補助教材等					

### 1 学習の到達目標

美術Ⅱでは、美術Ⅰで培われた基礎、基本をふまえて、一人一人が自分なりの考え方や捉え方を探求して興味、関心を見つけ出すことが目標です。さらに、自分なりの視点で見つけた主題と向き合い、試行錯誤を繰り返し、粘り強く作品と向き合うことができる主体性が重要になります。

鑑賞の分野では、作品を自由に鑑賞し、対話を通して意味や価値を創造的に生み出していけるようにすることです。まずは、時代背景や作者といった情報を抜きにして鑑賞することで、自分自身が問を生み出し、それを追求することで更に深い学びにつなげていけるのです。

### 2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

- この授業は、表現・鑑賞のいずれの場合でも、生徒自身が行う活動を中心に進めていきますので、意欲的・主体的に取り組むことが求められます。
- 学習活動の成果は作品の完成度に表われますが、結果だけを重視するのではなく、表現や鑑賞の過程での振り返りを大切にし、『何を、どのように表したかったか』『作品にどんな印象を持ったか』など、自分なりの思いや考えをもって活動に臨んでください。
- 進路を踏まえた学習相談にも個別に対応しますので積極的に活用してください。
- 日常の視覚的な情報に注意深くなるために、日頃のアイデア、ドローイングをスケッチブックに描きとめることを進めます。
- 表現力や鑑賞の経験を高めるため、授業で扱う課題だけにとどまらず、発展的な内容に関する書籍・画集などに触れる機会をつくったり、作品を鑑賞するために美術館に足を運ぶのも良いでしょう。

### 3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	造形的な視点を豊かにするための知識や表現における創造的な技能を身に付けて適切に使っている。	表現における発想や構想の能力、鑑賞における価値意識を伴った見方や感じ方を深めている。	制作に主体的に取り組み、美術を愛好する心情、豊かな感性や情操を深めている。学んだことを社会や生活に生かそうとしている。
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・提出作品</li> <li>・計画表の記述による知識の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・エスキース、計画表、提出作品による確認</li> <li>・表現形式の特性を生かし、形体や色彩、構成などについて考え、創造的な表現の構想を練っている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・制作に取り組む姿勢</li> <li>・振り返りシートの記述による確認</li> <li>・生徒による自己評価や相互評価による確認</li> </ul>

### 4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
---	-----	-----	-----	---------	---------

4 5 6 7	メタモルフォ ーシス	・教科書 ・参考作品	28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や明暗、描く角度などが生み出す「錯視」の効果、全体のイメージなどを捉え、表現方法を創意工夫し表す。</li> <li>・「錯視」の効果のよさや面白さ、表現の工夫などについて考え、構想を練ったり鑑賞したりする。</li> <li>・「錯視」の効果を生かして明暗で表す学習活動に、主体的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や明暗、描く角度などが生み出す「錯視」の効果や全体のイメージ、作風などで捉えることを理解している。(a)</li> <li>・主題に合った表現方法を創意工夫し、個性豊かで創造的に表している。(a)</li> <li>・「錯視」の効果のよさや面白さ、表現の工夫の造形的なよさや美しさを感じ取り、発想や構想の独自性と表現の工夫などについて多様な視点から考え、見方や感じ方を深めている。(b)</li> <li>・「錯視」の効果を生かして表す表現の創造的な諸活動に、主体的に取り組もうとしている。(c)</li> </ul>
8 9 10	新聞紙とボ ンドによる立 体造形	・教科書 ・参考作品	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や質感、量感、重心、バランス、動勢などの効果、既存の生き物や器物などの特徴やイメージを捉え、表現方法を創意工夫して表す。</li> <li>・空想の生物や能力や生息場所のイメージなどを基に、表情や動きを考え構想を練ったり鑑賞したりする。</li> <li>・空想の生物を考えて、表情や動きを捉えて立体で表す創造活動に、主体的に取り組む。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・形や質感、量感、重心、バランス、動勢などの効果、既存の生き物や器物などの特徴やイメージなどで空想の生物を捉えることを理解している。(a)</li> <li>・空想の生物や能力や生息場所のイメージなどを基に表情や動きを考えて主題を生成し、個性豊かで創造的な表現の構想を練っている。(b)</li> <li>空想によって表された新しい価値や意味などを見つめ、見方や感じ方を深める鑑賞の創造的な諸活動に、主体的にお取り組みようとしている。(c)</li> </ul>
11 12 1 2	各自の主題 に応じた単 元	各自必要な教 材・資料・材料 を準備する	24	<ul style="list-style-type: none"> <li>・美術に関わる全ての分野から自己のテーマを選ぶ。</li> <li>・各自が選んだテーマの計画書を作成する。</li> <li>・各自が決めた自由課題制作に関する研究・作品制作 プレゼンテーション・鑑賞会</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・主体的に主題を生成している。(b)</li> <li>・独創性・表現方法における個性の追求をしている。(b)</li> <li>・造形の特徴などを基に全体のイメージや作風、様式などで捉えることを理解している。(a)</li> <li>・各自が選んだ分野に対して更なる知識、技術の向上を図ろうとしている。(c)</li> <li>・作品の相互鑑賞をし、意見を交換することでプレゼンテーション能力を高めている。(c)</li> <li>・表現を通して自己を見つめ直し自分を知ることから社会へどのような働きかけができるかを考えるきっかけを作ろうとしている。(c)</li> </ul>

令和 8 年度 芸術科書道 シラバス

科目	書道Ⅱ	単位数	2	履修学年・クラス（講座）	2 学年
使用教科書	東京書籍 書道Ⅱ				
補助教材等	字典、プリント、教科担当作成の手本等				

1 学習の到達目標

<p>書道の創造的な諸活動を通して、生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに、感性を高め、個性豊かな表現と鑑賞の能力を伸ばし、書の伝統と文化についての理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・多くの書に触れ、人物や時代背景、書体や筆法などを知り、それを表現しようと試みる。</li> <li>また、多くの書表現に触れ、表現方法の幅広さを知り、感性を豊かにする。（知識・技能）</li> <li>・鑑賞したり臨書したりする中で、様々な表現方法や視点があることに気づき、多角的な視野を持って考え表現する力を養う。（知識・技能、思考力・判断力・表現力）</li> <li>・作品に対する意図を明確に持ち、それを表現するための方法を考え、判断し、表現しようとする姿勢を持つ。（思考力・判断力・表現力）</li> <li>・授業だけでなく日常生活の中でも積極的に芸術に触れ、多角的な視野を持って物事を捉えようとする姿勢や、自己の内面と向き合って主体的に自己表現をする力を身につける。（態度）</li> </ul>
--

2 学習方法等（授業担当者からのメッセージ）

<p>○書道Ⅱでは、書道Ⅰの学習を基礎に、さらに詳しく学んでいきます。書の伝統と文化についての理解を深め、個性豊かな表現と鑑賞の能力が伸ばせるよう各自が意欲的に取り組むことが求められます。</p> <p>以下の学習方法を頭に置いて取り組みましょう。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① 用具・用材を正しく適切に扱うこと。</li> <li>② 正しい用筆法、姿勢を身につけること。</li> <li>③ 図版や手本を良く観察・分析できる力を身につけ、特徴を捉えること。</li> <li>④ 積極的に表現すること。</li> <li>⑤ 授業時に限らず、日常生活にも書を取り入れる姿勢を持つこと。</li> </ol>
--

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	書道全般や各古典について理解する。 基本的な筆遣いや各古典の筆法を知りそれを用いて書く。 分析的な鑑賞の仕方を身につける。	知識と技能を基に、制作する作品に適した表現方法を模索してそれを表現しようと試みる。 制作意図を持ち、考え判断し表現する。	積極的に作品に触れ、鑑賞したり臨書したりする。 知識と技能を基に、改善点を改善しようと試行錯誤する。 構想から制作、完成、自己評価まで、主体となって創作作品を創り上げる。
主な評価方法	・作品 ・記述による知識の確認（プリント、授業内テスト） ・制作中の様子	・作品 ・制作中の様子 ・プリントへの記述内容	・作品 ・取り組みの姿勢 ・自己評価

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単元	教材	時数	学習内容	評価規準
4 5 6 7	『漢字仮名交じりの書』	教科書 プリント 字典	24	特徴的な古典の鑑賞、臨書、応用 ・一年次既習古典復習 ・鍾繇「薦季直表」 ・「張遷碑」 ・光明皇后「樂毅論」  古典を生かした創作作品制作  鑑賞と発表	・古典の概要や特徴、人物や時代について理解(a) ・直観的、分析的に鑑賞する(ab) ・鑑賞で捉えた特徴を表現するのに即した用筆・運筆を工夫しながら臨書する(abc) ・古典の特徴を応用して書く(ab) ・選文した言葉に対する感興や意図に応じた表現を考える(abc) ・表現形式に応じた構成を工夫する(bc) ・古典を生かして漢字と平仮名や片仮名を調和させる(abc) ・自己評価(bc)
7 8	『漢字の書 篆書』	教科書 プリント 字典	6	金文を用いた創作作品制作  鑑賞と発表	・篆書の成立を理解する(a) ・意図に即した表現を考える(abc) ・用具・用材の関係を理解し表現に生かす(ab) ・表現形式に応じた構成を工夫する(bc) ・自己評価(bc)
9	『漢字の書 楷書』	教科書	4	展覧会出品作品制作 光明皇后「樂毅論」	・直観的、分析的に鑑賞する(ab) ・鑑賞で捉えた特徴を表現するのに即した用筆・運筆を工夫しながら臨書する(abc)
9	『漢字の書 行書』	教科書	4	展覧会出品作品制作 王羲之「集王聖教序」	・古典の概要や特徴、人物や時代について理解(a) ・直観的、分析的に鑑賞する(ab) ・鑑賞で捉えた特徴を表現するのに即した用筆・運筆を工夫しながら臨書する(abc)
10 11	『仮名の書』	教科書 プリント	14	仮名の創作作品制作	・郷土出身の歌人島木赤彦について知る(a) ・変体仮名を知り正しく書く(a) ・感興や意図に応じた表現を考える(abc) ・平仮名・変体仮名・漢字を交ぜて文字を選定する(abc) ・表現形式に応じた構成を工夫する(bc) ・潤渇の表現を利用する(ab) ・自己評価(bc)
12	『漢字の書 行書』	教科書	4	展覧会出品作品制作 太宗「温泉銘」	・古典の概要や特徴、人物や時代について理解(a) ・直観的、分析的に鑑賞する(ab) ・鑑賞で捉えた特徴を表現するのに即した用筆・運筆を工夫しながら臨書する(abc)
12 1 2	『漢字の書 刻字』	教科書	14	彩玉ボード陽刻刻字作品制作	・彫る語句を選文し意図に即した書体を決める(ab) ・イメージを膨らませながら原稿を書く(abc) ・立体作品になるようしっかり彫る(abc) ・丁寧に着色する(abc)



令和 8 年度 英語科 シラバス

科目	英語コミュニケーションⅡ	単位数	4	履修学年・クラス (講座)	2 学年
使用教科書	Crown English CommunicationⅡ (三省堂)				
補助教材等	Crown English CommunicationⅡ サブノート・ワークブック				

1 学習の到達目標

<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 積極的に言語活動を行い、コミュニケーションを図ろうとすることができる。</li> <li>2. 聞くことや読むことを通して、情報や考えなどを的確に理解することができる。</li> <li>3. 話すこと (発表・やり取り) や書くことを通して、情報や考えなどを適切に伝えることができる。</li> <li>4. 言語や運用についての知識を身につけ、背景にある文化を理解することができる。</li> </ol>
--

2 学習方法等 (授業担当者からのメッセージ)

<p>【予習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① まず (辞書を使わずに) 2～3 回黙読し、全体の概要 (内容) をとらえる。</li> <li>② 教科書やワークブック、辞書 (電子を含む) を用いて新出単語を確認し意味を覚える。</li> </ol> <p>【復習】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>① その日に学習した英文を 2, 3 回音読する。</li> <li>② ワークブック等を用いて問題やサマリー (要約) に繰り返し取り組み、内容理解を深める。</li> </ol>
---

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語彙/語法などの基本的な知識を身につけているかどうか。</li> <li>・本文内容を理解できているかどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文内容について自分なりに要約し伝えているかどうか。</li> <li>・本文内容について自分の考えや身近な題材について、英語で表現できるかどうか。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本文内容について自分なりに要約し伝えようとしているかどうか。</li> <li>・本文内容について自分の考えや身近な題材について、英語で表現しようとしているかどうか。</li> </ul>
主な評価方法	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査 (中間・期末)</li> <li>・単語テスト (Performance Test)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・定期考査 (中間・期末) (Performance Test)</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・授業態度</li> <li>・提出物 (Performance Test)</li> </ul>

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学 習 内 容	評 価 規 準
4 5 6	Lesson 1  Lesson 2  Lesson 3	Crown English Communication II (三省堂)	全 120	<b>1：翻訳できないことば</b> 言語についてその文化・価値観 <b>2：本が子どもに力を与える</b> 本を通しての教育機会 <b>3：アクセシブル・ジャパン</b> バリアフリー・障がいについて	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する
7 8 9	Lesson 4  Lesson 5  Lesson 6	Crown English Communication II (三省堂)	全 120	<b>4：国境なき医師団</b> 国際協力・ボランティアを通して生命について考える。 <b>5：メンタル・タフネス</b> ～精神的な強さ～ <b>6：ガウディの足跡をたどる</b> 建築家としての人生を探る	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する
10 11 12	(Lesson 6)  Lesson 7  Lesson 8	Crown English Communication II (三省堂)	全 120	(上記参照)  <b>7：バイオミクリーについて</b> 生物的模倣の意義について <b>8：もはや 見えないことはない</b> フェアトレードを通してその内容・意義を探る	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する
1 2	Lesson 9  Lesson 10	Crown English Communication I(三省堂出版)	全 120	<b>9：ナッジ</b> ～実践行動経済学とは何か <b>10:存在するのは、我々だけか？</b> ～地球外生命体について  (Reading 2)	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する

令和 8 年度 英語科 シラバス

科目	論理表現Ⅱ	単位数	2	履修学年・クラス(講座)	2 学年
使用教科書	Vision Quest( Standard)E-Logic and Expression Ⅱ Ace (啓林館)				
補助教材等	Vision Quest( Standard)E-Logic and Expression Ⅱ Ace workbook / 総合英語				

1 学習の到達目標

1. 英語の基本的な文法や語法を身に着ける。
2. 目的や場面、状況などに応じた論理的で効果的な発信をすることができる。

2 学習方法等(授業担当者からのメッセージ)

【予習】

- ① 授業で扱う単元(文法項目)を読み、おおよその内容をつかむ。
- ② わからない単語や表現の意味を前後関係から推測した後、辞書と参考書(総合英語)でわからない単語や表現を調べる。
- ③ 練習問題を確認し、自分なりに解く(わからないところをはっきりさせておく)。

【復習】

- ① その日に学習した問題をノートに繰り返す。
- ② 間違えた問題をノートに整理する。
- ③ 重要単語や表現を英語で言えて書けるように繰り返し練習する。
- ④ 付属のワークブックに取り組む。

3 学習評価

評価の観点	知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
科目ごとの評価の観点の趣旨	・語彙語法、文法などの基本的な知識を身につけているかどうか。	・目的や場面、状況などに応じて理論的に考え、表現しているかどうか	・目的や場面、状況などに応じて理論的に考え、表現しようとしているかどうか
主な評価方法	・定期考査(中間・期末) ・小テスト	・定期考査(中間・期末)	・授業態度 (Performance Contest) ・提出物

4 学習及び評価計画

※評価の観点：(a) 知識・技能、(b) 思考・判断・表現、(c) 主体的に学習に取り組む態度

月	単 元	教 材	時 数	学習内容（文法内容）	評 価 規 準
4 5 6	Lesson 1  Lesson 2  Lesson 3	Vision Quest English logic and expression II (啓林館)	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・将来の目標（適切な主語使用法）</li> <li>・学校生活（適切な動詞使用法）</li> <li>・スポーツ（時制）</li> </ul>	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する
7 8 9	Lesson 4  Lesson 5  Lesson 6  Lesson 7	Vision Quest English logic and expression II (啓林館)	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・情報化時代（義務・必要・推量）</li> <li>・環境問題（情報を加える①）</li> <li>・文 化（情報を加える②）</li> <li>・言語教育（情報を加える③）</li> </ul>	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する
10 11 12	(Lesson 7)  Lesson 8  Lesson 9  Lesson 10	Vision Quest English logic and expression II (啓林館)	18	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同 上</li> <li>・社 会（情報を伝える）</li> <li>・願 望（条件と仮定）</li> <li>・科学技術（数 量）</li> </ul>	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する
1 2	(Lesson10)  Lesson 11  Lesson 12	Vision Quest English logic and expression II (啓林館)	17	<ul style="list-style-type: none"> <li>・同 上</li> <li>・健 康（比 較）</li> <li>・ビジネス（否 定）</li> </ul>	A：目標を十分達成できた B：目標をおおむね達成できた C：さらに努力を要する